

愛知県美術館年報

目次

収集・保存・管理	4
収集	4
収集方針	4
収集委員会	4
収集の状況	4
新収蔵作品	5
寄託	5
美術品等取得基金について	6
保存	7
保存事業の実施状況	7
管理	8
作品の管理	8
作品の貸出	8
展示・教育普及	9
所蔵作品展	9
展示の概要	9
所蔵作品展の開催状況と入場者数	9
所蔵作品展 展示作品リスト	10
テーマ展（小企画展）	23
移動美術館	24
三県立美術館による協同企画展の実施状況	26
企画展	28
企画展一覧	28
企画展の開催状況	30
教育普及	40
出版・発行	40
講演会・講座	42
学芸員による展示説明会（ギャラリートーク）	43
各種プログラム	43
友の会活動への運営協力	45
調査研究	46
美術館活動に則した調査研究	
その他	
ギャラリー（貸館）	47
利用状況	
組織および職員構成	49
関係委員会名簿	50

収集

収集方針

- ・ 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・ 現在を刻印するにふさわしい作品
- ・ 愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・ 上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

収集委員会（※委員名簿は47頁）

- 開催日
- ・ 第1回2004（平成16）年9月9日
 - ・ 第2回2005（平成17）年1月28日

収集の状況

- ・ 上記の収集方針にそって3点の作品を購入し、230点の作品の寄贈を受けた。また、それとは別に木村美保子氏（故木村定三氏夫人）より木村定三コレクション20点の寄贈を受けた。

美術品等収集状況

種 別	2004(平成16)年度		2005(平成17)年3月末現在 所蔵総点数 ()内は旧文化会館および 県他施設からの管理換え
	購 入	寄 贈	
	点 数	点 数	
日本画	0	0	220 (149)
洋 画	0	27	583 (394)
立 体	3	0	118 (30)
版 画	0	36	558 (102)
水彩・素描	0	163	677 (309)
インスタレーション	0	0	2 (0)
工 芸	0	0	50 (50)
書	0	0	20 (20)
資 料	0	4	16 (4)
藤井達吉 コレクション	—	—	1,460 (1,460)
木村定三 コレクション	—	20	3,284 (0)
計	3	250	6,988 (2,518)

※愛知県美術館の所蔵作品は、愛知県文化会館美術館から移管された作品と愛知芸術文化センター愛知県美術館のために1987年4月以降収集された作品から成っている。藤井達吉コレクションとは、愛知県文化会館美術館の開館時（1955年）に藤井達吉氏により寄贈された同氏の作品および同氏が収集した絵画・工芸などを指す。また、木村定三コレクションとは、2001年度・2002年度に木村定三氏より、2003年度・2004年度に木村美保子氏（故木村定三氏夫人）より寄贈された木村定三氏が収集した絵画・工芸などを指す。

木村定三コレクションの内訳

		2002 (平成13) 年度	2003 (平成14) 年度	2003 (平成15) 年度	2004 (平成16) 年度	計
		定三氏寄贈		美保子氏寄贈		
海外	絵 画	0	0	17	0	17
	彫 刻	0	11	16	6	33
	工 芸	0	0	254	5	259
	書 跡	0	0	8	0	8
	考古資料	0	177	120	0	297
	版 画	0	0	17	0	17
	水彩素画	0	0	6	0	6
	資 料	0	0	11	0	11
小 計		0	188	449	11	648
日本	絵 画	11	91	708	1	811
	彫 刻	0	7	81	0	88
	工 芸	0	11	1,017	2	1,030
	書 跡	0	21	180	0	201
	考古資料	0	0	175	1	176
	版 画	0	0	127	3	130
	水彩素画	0	15	158	0	173
	資 料	0	0	25	2	27
小 計		11	145	2,482	9	2,636
計		11	333	2,920	20	3,284

※暫定版

新収蔵作品

愛知県美術館では、コレクションの充実をはかるべく継続して収集を続けている。1988年の美術品等取得基金の設置以来、コレクション充実に努め、2004（平成16）年度は、愛知県美術館において企画展で展示したことのある作家、またより新しい世代の現存の作家の作品3点を購入したほか、杉本武氏、木村美保子氏、山嵜悦子氏、山嵜功平氏、佃秀實氏より寄贈を受け、寄贈点数は250点に及んだ。

収集作品一覧

購入作品

	種別	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	立体	戸谷成雄	双影体Ⅱ	2001	木・灰・アクリル	84.0×73.0×850.0
2	〃	伊藤 誠	頂上	2004	ポリエステル樹脂・ファイバーグラス	238.8×82.8×29.0
3	〃	細井 篤	ボーダーズ・ゲーム	2004	鉄・布・F.R.P.・ポリパテ・色鉛筆	85.0×105.5×223.0

寄贈作品（木村定三コレクションを除く）

	種別	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)	寄贈者 氏名
1-196	洋画、水彩・素描、版画、資料	杉本健吉	聚楽園大仏 はじめ196点				杉本 武氏
197	水彩・素描	辰野登恵子	Aug-86-9	1986	木炭・パステル・水彩、紙	113.5×129.5	山嵜悦子氏
198	〃	〃	Oct-86-5	1986	木炭・パステル、紙	113.5×130.0	山嵜功平氏
199-212	版画	—	版画誌『白と黒』14冊	1931-34	木版、紙	各29.7×20.6	佃 秀實氏
213-230	〃	—	版画誌『版藝術』18冊	1932-34	木版、紙	各28.8×20.6	

寄託

新規寄託品

2004（平成16）年度には新たに6件167点の寄託を受けた。

受託の状況（24件）

分類	点数
洋画	91
日本画	22
彫刻	52
版画	62
水彩・素描	66
資料	4
計	297

平成17年3月31日現在

美術品等取得基金について

愛知県美術館と陶磁資料館が、芸術的価値の高い美術品等を機動的、継続的に収集するための財源として昭和63年4月に設置された。基金には、県からの積立金のほかに、美術品等の収集を支援する民間からの寄付金が含まれている。

運用状況（2005（平成17）年3月31日現在）

基金総額		111億6262万3533円
運用内訳	美術品	94億4624万5630円 (1,296点)
	現金	17億1637万7903円

保存

保存事業の実施状況

ア 所蔵作品の状態調査と保存措置等

保存措置を外部委託で行ったものは、下記の通り。

修復作業

- ・杉本健吉 8 点

《舞妓》《仏頭》《自画像》《浅草》《平等院夜景》《自画像》《首の長い男》《仕事場（アトリエ）》

依頼先 浅井千春

（技法材料：すべて混在技法。修復内容：洗浄、支持体の補強、剥落留め）

- ・熊谷守一 《石亀》1957年

依頼先 浅井千春

（技法材料：油彩・画布。修復内容：剥落留め）

表装作業

- ・杉本健吉《火牛下図》（38枚のうち12枚）

依頼先 鈴木昌生堂

（技法材料：墨・紙。委託内容：卷子本に仕立）

状態調査

- ・木村コレクションのうち近世絵画65点

依頼先 JCP

額装

- ・木村コレクションのうち熊谷守一の油彩画、素描55点

（委託内容、額の改造およびマットの取り替え）

- ・杉本健吉《宮島風景》《京都国立博物館》《談山神社》《中国風景》

（技法材料：油彩・画布。委託内容：額の新調）

イ 保存環境の整備等

- ・年度の前半は、収蔵庫や撮影室、修復室あるいはその周辺の廊下、踊り場などの整理、清掃を繰り返し行い、空気の清浄化に努めた。またその清掃方法も様々な方法を試行し、効果と合理性をあげる努力をした。
- ・年度後半には、実際に空中浮遊塵と浮遊菌について、調査を外部委託した。木村コレクションの調査が行われる撮影室については、予想を超えて環境が悪かったため、さらに空気清浄機の導入を検討し、年度末に設置した。
- ・開館以後、企画展の造作物について、保存担当がその内容について、正式に関与することはなかったが、「自然をめぐる千年の旅」展で、初めて設計段階から保存担当が関わった。仕様書の末尾に特記事項として、いくつかの条件が付加でき、またその効果をあげることができた。

ウ 緊急事態対応の保全マニュアルの作成

平成13年の想定東海地震強化区域の指定見直しによる名古屋市の指定、および平成15年東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されたことを受けて、愛知県も平成16年に愛知県地域防災計画の見直しがされた。これによって想定東海地震について、注意情報もしくは警戒宣言が出された場合、閉館することが県として決定され、この年度の半ばに、まずセンターとしての来館者の退館誘導および閉館マニュアルが策定された。これは来館者への対応マニュアルであるので、美術館は独自に作品に対する対策を考える必要に迫られ、この年度の後半に下記の事項を決定した。

- ・美術館が「想定東海地震に関する美術館の地震防災応急処置対策活動要領」を自ら定め、センター全体および本庁に認知されるよう努力するという方向性を持つ。
- ・万博期間中の3本の展覧会に対し、シミュレーションをその都度行う。

管理

作品の管理

- ・包括外部監査の指摘を受け、備品台帳と所蔵作品リスト、作品カードとの照合整理を行い、年次計画を立てて現品確認作業を実施した。
- ・木村定三コレクションの調査整理を3年計画の事業として着手し、近世絵画を中心とした作業を実施した。
- ・寄贈作品の大量受け入れにともない、収蔵庫内の作品収納場所の変更、整理を行なった。

作品の貸出

内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、保存状態が良好で、所蔵作品展の展示計画に支障がないものについて、展覧会の内容やその意義を勘案し、所蔵作品貸出要領に則って貸出を行った。

貸出の概要

貸出先		件数	点数
国内	美術館・博物館	49	98
	県関係機関	5	47
国外	美術館・博物館	1	1
計		55	146

所蔵作品展

展示の概要

県民がいつでも20世紀の美術の特質に触れ、その展開を見ることができる展示を提供すると同時に、来館者の多様化する関心に考慮して、各期ごとに、企画展と関連する時代や作家、あるいは一つのまとまりのある作品群に焦点をあてた特集展示を行なった。

2001（平成13）年度から年に一度全館を使用して開催している全館所蔵作品展では、「境界」をキーワードに新たな切り口で、「境界をこえて」展を構成した。

小規模企画展であるテーマ展では、当地方で制作活動を行なっている若手作家を主とし取り上げているが、2004（平成16）年度は名古屋芸術大学助教授中澤英明の「子供の顔」展を開催した。

2001（平成13）年度以降、数多くの美術品の寄贈を受けた木村定三コレクションについては、展示室一室をあてて常時公開した。

2004（平成16）年度所蔵作品展開催状況と入場者数

展示期	会期	入場者数	1日平均
2004（平成16）年度第Ⅰ期	2004年4月9日－7月19日（79日間）		
特集展示 「長谷川 潔」 「創作版画」「ドイツ表現主義」	4月9日－5月18日 6月6日－7月19日	15,242人	193人
内 訳	企画展共通入場者数	14,227人	180人
	所蔵作品展のみの入場者数	1,015人	13人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅱ期	2004年8月6日－12月5日（96日間）		
夏休み特集 「青と赤」 テーマ展 中澤英明「子供の顔」 特集展示 「現代の日本画」	8月6日－9月23日 8月5日－9月23日 8月5日－12月5日	27,866人	290人
内 訳	企画展共通入場者数	26,515人	276人
	所蔵作品展のみの入場者数	1,351人	14人
展示期	会期	入場者数	1日平均
第Ⅲ期	2004年12月18日－2005年5月15日 （3月31日までの集計）（71日間）		
全館所蔵品展 「境界をこえて」 特集展示 「愛知の美術Ⅰ－戦前の洋画－」	12月18日－2005年2月13日 2005年3月6日－5月15日	14,729人	207人
内 訳	企画展共通入場者数（3月31日までの集計）	8,619人	121人
	所蔵作品展のみの入場者数（3月31日までの集計）	6,723人	95人
2004（平成16）年度 合 計 （246日間）		64,114人	261人
内 訳	企画展共通入場者数	55,471人	225人
	所蔵作品展のみの入場者数	8,643人	35人

2004（平成16）年度合計入場者欄及び内訳欄は、～3/31までの集計

所蔵作品展 展示作品リスト

■2004(平成16)年度 第I期

コレクションの中核をなす20世紀の美術を軸に「キュビズムの版画」「近代の洋画」「長谷川潔」「中村正義」、そして木村定三コレクションからは「香月泰男」と、各展示室ごとに美術の重要な動向や、際立った活動を展開した作家などを特集した。
前期(4月9日-5月23日)

3室 キュビズムの版画		ルイ・マルクーシ	ギョーム・アポリネールの肖像 1912-1920	宮脇 晴	自画像 1920
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女 1912	エルンスト・バルラッハ	忘我 (所蔵作品展の導入として前室に展示) 1911-1912	宮脇 晴	お手玉の少女 1922
ジョルジュ・ブラック	裸婦習作 1907-1908	4室 近代の洋画		清水 登之	建築現場(ワーガーデン) 1923
ジョルジュ・ブラック	小さなキュビズム的ギター 1910(1954)	高橋 由一	厨房具 1878-1879	小出 楯重	蔬菜静物 1925
ジョルジュ・ブラック	Bass 1911(1950)	高橋 由一	不忍池 1880頃	前田 寛治	褐衣婦人像 1925
ジョルジュ・ブラック	Fox 1911(1912)	山本 芳翠	月下の裸婦 1882-1886頃	長谷川 利行	酒売場 1927
ジョルジュ・ブラック	Pale Ale 1912(1954)	浅井 忠	八王子付近の街 1887	長谷川 利行	ノアノアの少女 1937
パブロ・ピカソ	レオニー嬢「聖マトレ」より 1910(1911)	久米 桂一郎	秋景 1892	伊藤 廉	肘をつく女 1929
パブロ・ピカソ	テーブル「聖マトレ」より 1910(1911)	黒田 清輝	暖き日 1897	海老原 喜之助	ゲレンデ 1930
パブロ・ピカソ	長椅子のレオニー嬢「聖マトレ」より 1910(1911)	青木 繁	太田の森 1902	佐分 真	裸婦 1930頃
パブロ・ピカソ	修道院「聖マトレ」より 1910(1911)	梅原 龍三郎	横臥裸婦 1908	野口 弥太郎	門 1931頃
パブロ・ピカソ	男の頭部 1911(1912)	梅原 龍三郎	若き羅馬人 1909	北川 民次	タスコからの眺望 1933
パブロ・ピカソ	ギターを持つ男 1915(1929)	安井 曾太郎	婦人像 1912頃	木村 莊八	私のラヴァさん 1934
カジミール・マレーヴィチ	農婦「子豚」より 1913	岸田 劉生	斎藤与里氏像 1913	安井 曾太郎	承德哮喘廟 1938
カジミール・マレーヴィチ	建設者の完全な肖像「子豚」より 1913	岸田 劉生	高須光治君之肖像 1915	小島 善太郎	房州風景 1930(1927)
カジミール・マレーヴィチ	飛行機と汽船による50人の人間の同時的な死 第12図「爆」より 1913	坂本 繁二郎	海岸の家 1915	北川 民次	南国の花 1940
カジミール・マレーヴィチ	祈り 第21葉「爆」より 1913	木村 莊八	壺を持つ女 1915	須田 国太郎	夏 1941
ジャック・ヴィヨン	食卓 1912-1913	中村 彝	静物 1915頃	荻原 守衛	女の胴 1907
ジャック・ヴィヨン	横顔のイヴォヌヌ 1913	河野 通勢	自画像 1917	戸張 孤雁	きらめく嫉妬 1924
ジャック・ヴィヨン	機械のある工場 1914	小出 楯重	N婦人像 1918	5室 20世紀の美術	
ライオネル・ファイニンガー	ダースドルフ 1918	大沢 鉦一郎	大曾根風景 1919	パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女 1902
ライオネル・ファイニンガー	無題「ハウスマイスター版画作品集」より 1923	長原 孝太郎	山村 1919	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり (黄金の騎士) 1903

アメデオ・モディリアーニ	黒い瞳の女	1918
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-1913
藤田 嗣治	青衣の少女	1925
アルペール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
エドゥワール・ヴエイヤール	窓辺の女	1898
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
ライオネル・ファインガー	夕暮れの海 I	1927
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935
パウル・クレー	回心した女の墮落	1939
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アド・ラインハート	No.114	1950
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
根岸 芳郎	1997-11-18	1997

榎倉 康二	干渉(Story-No.49)	1992
中村 一美	破舎仏涅槃図 I	1993-1995
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965

6室 長谷川潔

長谷川 潔	プロヴァンスの古市(ガラス)	1925
長谷川 潔	サン・ポール・ド・ヴァンスの村	1929
長谷川 潔	アネモネ	1930
長谷川 潔	摩天楼上空のボアン・ダンテロガシオン号	1930
長谷川 潔	野の枯草	1931
長谷川 潔	コクリコと野花 (B)	1932
長谷川 潔	オランジュと葡萄	1932
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932
長谷川 潔	二つのアネモネ	1934
長谷川 潔	コップのダリア	1935
長谷川 潔	サン・ポール・ド・ヴァンスの風景	1936
長谷川 潔	三つのアネモネ	1937
長谷川 潔	一樹(ニレの樹)	1941
長谷川 潔	花(切子グラスに挿したアネモネと草花)	1944-1945
長谷川 潔	フレジュスの古代ローマの燈台	1952
長谷川 潔	アカシアの老樹	1954

長谷川 潔	木と月	1954
長谷川 潔	再生したる林檎樹	1956
長谷川 潔	野辺小禽	1957
長谷川 潔	本野盛一編『竹取物語』	1934

7室 中村正義

中村 正義	少女	1947頃
中村 正義	風景	1948頃
中村 正義	静物	1948頃
中村 正義	庭	1958
中村 正義	風景	1960
中村 正義	少女	1961
中村 正義	樹	1962
中村 正義	顔	1975
中村 正義	人物	1958頃
中村 正義	舞妓	1974
中村 正義	顔	1976
中村 正義	顔	1976
中村 正義	ピエロ	1963
中村 正義	おねえちゃん	1968
中村 正義	爽爽	1966

8室 木村定三コレクション 香月泰男

香月 泰男	巴里風景	1956
香月 泰男	パリ風景	1966
香月 泰男	ニース海岸	制作年不詳

香月 泰男	玉葱	制作年不詳
香月 泰男	ざくろ	1958
香月 泰男	さくらんぼ	制作年不詳
香月 泰男	海老	制作年不詳
香月 泰男	海(ペーチカ)	1966
香月 泰男	モンマルトル	1956
香月 泰男	クレタ、ヘラクリオン	1972
香月 泰男	鋸(シベリア)	1960代頃
香月 泰男	綱渡り	制作年不詳
香月 泰男	切株(シベリア)	1960代頃
香月 泰男	洗濯	1960代頃

香月 泰男	工事	1960代頃
香月 泰男	懸垂	1961
香月 泰男	綱渡	制作年不詳
香月 泰男	ドリル	制作年不詳
香月 泰男	サッカー	制作年不詳
香月 泰男	ナホトカ	制作年不詳
香月 泰男	風船売り	1960
香月 泰男	風船売り	1960
前室、ロビー		
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
オシップ・ザッキン	チェロのトルソ	1956-1957

ジャーコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション	1947-1966
アレクサンダー・コールドー	片膝ついて	1944
熊谷 守一	鳥	1938
熊谷 守一	裸婦	1954
山口 長男	庭	1935
屋外展示スペース		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑠郎	大地	1992

■2004(平成16)年度 第I期

20世紀美術の成立と展開を、寄託作品の19世紀ドイツ美術なども加えて展示構成した。ここでは西洋と日本の美術を混在させて展示し、20世紀の美術動向を大きく捉えることを試みた。また、この展示に関連させて、ドイツ表現主義、日本の創作版画を特集した。

後期(6月4日-7月19日)

3室 19世紀から20世紀へ		
〈絵 画〉		
フランツ・フォン・シュトゥック	ギリシア神話	不詳
グスタフ・リヒター	海浜風景	不詳
フーゴ・フォン・ハーベルマン	夕べの祈り	1876
木村 莊八	壺を持つ女	1915
岸田 劉生	斎藤与里氏像	1913
大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
鈴木 不知	山畑	1910
須田 国太郎	風景(ボンテヴェドゥラ)	1920

ヴァシリ・カンディンスキー	夕暮れ	1903
ヴァシリ・カンディンスキー	鏡	1907
ジェームズ・アンソール	悪魔の戦い	1888
ジェームズ・アンソール	キリストのブリュッセル入城	1898
エゴン・シーレ	しゃがみこむ女	1914
4室 20世紀前半の美術		
〈絵 画〉		
アメデオ・モディリアーニ	黒い瞳の女	1918
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-1913
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903

安井 曾太郎	婦人像	1912頃
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
前田 寛治	褐衣婦人像	1925
佐分 真	横たわる婦人	制作年不詳
梅原 龍三郎	横臥裸婦	1908
エドゥアール・ヴュイヤール	窓辺の女	1898
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928

神原 泰	生命の流動	1924
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海Ⅰ	1927
〈彫刻・立体〉		
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
荻原 守衛	女の胴 1907(1993鋳造)	
戸張 孤雁	立てる女	1911

5室 20世紀後半の美術

〈絵 画〉		
北川 民次	南国の花	1940
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
矢橋 六郎	牡丹	1946
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
三岸 節子	魚とインカの壺	1951
森 芳雄	女たち	1954
パウル・クレー	回心した女の墮落	1939
島海 青児	うづくまる	1954
白髪 一雄	作品	1963
アントニ・タビエス	コンポジション	1977
斎藤 義重	作品	1962
山口 長男	屏形	1963
アド・ラインハート	No.114	1950
オノサト・トシノブ	三つの黒	1958

金山 康喜	静物	1956
田淵 安一	鬼に金棒	1953
田淵 安一	姪女たち	1964
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
桑山 忠明	茶白青	1968
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
杉戸 洋	the Rainbow Wall	2002
中村 一美	破舎仏涅槃図Ⅰ	1993-1995
根岸 芳郎	1997-11-18	1997
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
榎倉 康二	干渉(Story-No.49)	1992
〈彫刻・立体〉		
堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956

6室 表現主義(2)

〈絵 画〉		
エルンスト＝ルードヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
〈版 画〉		
エーリヒ・ヘッケル	疲れ	1913
エーリヒ・ヘッケル	〈第1回現代ドイツ美術展〉のポスター	1920
エルンスト＝ルードヴィヒ・キルヒナー	三本の道	1917

ケーテ・コルヴィッツ	青い服の女工	1903
ケーテ・コルヴィッツ	畠を耕す者「農民戦争」より	1906
ケーテ・コルヴィッツ	女を膝に抱く死	1921
ヴィルヘルム・レームブルック	母と子(幻影Ⅱ)	1913
エミール・ノルデ	騎士	1906
エミール・ノルデ	おしゃべり	1917

〈彫刻・立体〉

エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-1912
エルンスト・バルラッハ	母なる大地Ⅱ	1921

7室 創作版画

〈版 画〉		
山本 鼎	漁夫	1904
青木 繁(画)山本 鼎(彫)	錯斧	1905
山本 鼎	風景	1917
恩地 孝四郎	丘頂	1917頃
恩地 孝四郎	卓上静物	1918
恩地 孝四郎	リリック No.2	1934
藤森 静雄	失題	1914
深沢 索一	丘上走土	1925(1924)
川上澄生	異国雨の夕景	1925
	『月映』5〜8	37点 1914-1915
	『月映』5・6	2冊 1914
	『詩と版画』1〜13	13冊 1922-1925
8室 木村定三コレクション室 近代の洋画		

〈絵 画〉		
長谷川 利行	ノアノアの少女	1937
長谷川 利行	バンジー	1938
熊谷 守一	裸婦	1954
熊谷 守一	少女	1963
熊谷 守一	石亀	1957
熊谷 守一	白猫	1962
熊谷 守一	漁村	1954
須田 剋太	東大寺落慶供養	1987
須田 剋太	遊女之図	1988
須田 剋太	鏡獅子	1989
香月 泰男	風船売り	1960
横井 礼以	三つ面	1953

尾崎 良二	サパークラブ	1970
前室、ロビー		
〈彫刻・立体〉		
ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	1897
アレクサンダー・コールドー	片膝ついて	1944(1968)
ジャコモ・マンズー	ある主題によるヴァリエーション	1947-1966
加藤 昭男	ツタンカーメンのえんどう豆	1996
〈絵 画〉		
アンディ・ウオーホル	レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
青木 繁	海	1904
萬鉄 五郎	水郷風景	1926
熊谷 守一	鳥	1938

〈素 描〉		
寛 忠治	正面の顔 1	1930
寛 忠治	正面の顔 2	1957
寛 忠治	横顔 3	1949
寛 忠治	名大四ツ谷付近 1	1933
屋外展示スペース		
〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1966
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

■2004(平成16)年度 第Ⅱ期

コレクションの核である20世紀美術の代表的な作品の展示を軸に、日本の近代美術を特集した。また、夏休みにあわせて、「青と赤」をテーマに美術における色彩の役割を、楽しみながら理解できるよう特集展示を行った。また、木村定三コレクションからは浜田知明をまとめて紹介した。

前期(8月6日-9月26日)

4室 夏休み特集「青と赤」

〈絵 画〉		
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
里見 勝蔵	裸婦	1928-1929頃
パウル・クレー	回心した女の墮落	1939
アド・ラインハート	No.114	1950

山田 正亮	Work No.B 182	1958
斎藤 義重	作品	1962
白髪 一雄	作品	1963
菅井 汲	ナショナル ルート No.11	1964
アンディ・ウオーホル	レディーズ・アンド・ジェントルメン	1975
難波田 龍起	原初の風景 B	1987頃
〈版 画〉		
フランツ・ゲルチュ	ナターシャⅣ	1987-1988

〈彫刻・立体〉		
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
ハンス・アルプ	森	1917
5室 20世紀の美術		
〈絵 画〉		
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-1913
アメデオ・モディリアーニ	黒い瞳の女	1918
藤田 嗣治	青衣の少女	1925

エドゥアール・ヴイヤール	窓辺の女	1898
アルペール・マルケ	ノートルダムの後陣	1902
ビエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-1922
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
パウル・クレー	女の館	1921
パウル・クレー	蛾の踊り	1923
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953
ニコラ・ド・スタール	コンポジション	1948
アントニ・タピエス	コンポジション	1977
ジョゼフ・アルバース	正方形顔	1962
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
中村 一美	破舎仏涅槃図 I	1993-1995
根岸 芳郎	1997-11-18	1997

辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
〈版 画〉		
フェルナン・レジェ	『サーカス』より	1950
〈彫刻・立体〉		
ルイズ・ニエヴェルソン	漂う天界	1959-1966
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
オシップ・ザッキン	チェロのトルソ	1956-1957
エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-1912
エミール・アントワース・ザールデル	両手のベートーベン	1908
6室 日本の近代美術 I		
〈絵 画〉		
高橋 由一	不忍池	1880頃
浅井 忠	八王子付近の街	1887
青木 繁	海	1904
安井 曾太郎	婦人像	1912頃
梅原 龍三郎	横臥裸婦	1908
中村 彝	少女裸像	1914
小出 楯重	N婦人像	1918
岸田 劉生	斎藤与里氏像	1913
大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
木村 莊八	壺を持つ女	1915
長谷川 利行	霊岸島の倉庫	1937
前田 寛治	褐衣婦人像	1925

北川 民次	メキシコ三童女	1937
〈彫刻・立体〉		
萩原 守衛	女の胴	1907(1993)
戸張 孤雁	をなご(頭部)	1910
戸張 孤雁	立てる女	1911
7室 日本の近代美術 II		
〈絵 画〉		
北川 民次	南国の花	1940
須田 国太郎	樹下	1954
鳥海 青児	うずくまる	1954
三岸 節子	魚とインカの壺	1951
矢橋 六郎	牡丹	1946
山口 薫	ボタン雪と騎手	1953
森 芳雄	女たち	1954
荻須 高德	線路に面した家	1955
瑛九	黄色い花	1957-1958
難波田 龍起	萌	1961
金山 康喜	静物	1956
杉本 健吉	正倉院	1976
須田 剋太	東大寺	1981
〈彫刻・立体〉		
柳原 義達	黒人の女	1956(1960)
高田 博厚	女のトルソ	1937
8室 木村定三コレクション室 浜田知明		

〈版 画〉		
浜田 知明	二人	1975
浜田 知明	初年兵哀歌(銃架のかげ)	1951
浜田 知明	地方名士	1958
浜田 知明	飛翔	1958
浜田 知明	群盲	1960
浜田 知明	噂	1961
浜田 知明	カタコンベ	1966
浜田 知明	風景	1967
浜田 知明	いらいら(A)	1974
浜田 知明	いらいら(B)	1975
浜田 知明	顔	1975
浜田 知明	情報過多の人間(「見える人 浜田知明展覧会」より)	1975
浜田 知明	密談	1976
浜田 知明	風化する街(A)	1977
浜田 知明	だめな奴	1979
浜田 知明	遠藤周作「沈黙」より	1980

浜田 知明	ある日…。	1982
浜田 知明	カタコンベ	1982
浜田 知明	怯える人々	1985
浜田 知明	むし暑い夜	1985
浜田 知明	月夜	1987
浜田 知明	ボタンA	1988
浜田 知明	鳥	1990
〈彫刻・立体〉		
浜田 知明	情報過多の人間	1984
浜田 知明	無聊	1988
前室、ロビー		
〈絵 画〉		
岡村 桂三郎	朱雀	1993
清水 登之	建築現場(ワーガーデン)	1923
熊谷 守一	鳥	1938
アンドリュース・ワイエス	自画像	1938
〈版 画〉		

ベン・シャーン	テレビのアンテナ	1953
ベン・シャーン	伝道の書	1965
ベン・シャーン	ガンジー	1965
ベン・シャーン	然るは作(「沈黙」の「沈黙」)	1968
〈彫刻・立体〉		
荒木 高子	砂の聖書	1983
ヴァルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
ふじい 忠一	Untitled	1990
アレクサンダー・コールダー	ゴースト	1976
アレクサンダー・コールダー	片膝ついて	1944(1968)
屋外展示スペース		
〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑠郎	大地	1992

■2004(平成16)年度 第Ⅱ期

20世紀美術の動向を「抽象絵画の成立と展開」に焦点をあてて展示構成した。また、この地方の作家活動を取り上げるテーマ展では、子供をモチーフに制作を行っている中澤英明を紹介した。

後期(10月8日-12月5日)

4室 20世紀の美術 抽象絵画の成立と展開

〈絵 画〉		
ロベール・ドローネー	カーディフチーム習作	1913-1922頃
ジャーコモ・パッラ	太陽の前を通過する水星(習作)	1914

フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
フランシス・ピカビア	糸巻き	1921-1922
パウル・クレー	女の館	1921
クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52、美容	1920

クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305、ロボジツ	1921
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海Ⅰ	1927
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928

ベン・ニコルソン	1933(スペインの松葉書のあるコラージュ)	1933
----------	------------------------	------

〈彫刻・立体〉

アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912
----------------	-----	------

ハンス(ジャン)・アルプ	森	1917頃
--------------	---	-------

ハンス(ジャン)・アルプ	星座	1932
--------------	----	------

〈版 画〉

ハンス(ジャン)・アルプ	版画集『日輪』	1966
--------------	---------	------

ヴァシリー・カンディンスキー	楽しい飛船『バウハウス・マスター版画作品集』より	1923
----------------	--------------------------	------

ライオネル・ファイニンガー	ダースドルフ	1918
---------------	--------	------

ライオネル・ファイニンガー	無題『バウハウス・マスター版画作品集』より	1923
---------------	-----------------------	------

ラースロー・モホリ＝ナジ	コンストラクション『ケスナー版画集』より	1922-1923
--------------	----------------------	-----------

ラースロー・モホリ＝ナジ	コンストラクション『ケスナー版画集』より	1922-1923
--------------	----------------------	-----------

ラースロー・モホリ＝ナジ	コンストラクション『ケスナー版画集』より	1922-1923
--------------	----------------------	-----------

フランティšek・クプカ	白と黒の4つの物語	1926
--------------	-----------	------

	復刻版『白と黒の4つの物語』	1996
--	----------------	------

5室 20世紀の美術

〈絵 画〉

瑛九	黄色い花	1957-1958
----	------	-----------

オノサト・トシノブ	三つの黒	1958
-----------	------	------

山田 正亮	Work No.B 182	1958
-------	---------------	------

難波田 龍起	萌	1961
--------	---	------

堂本 高郎	絵画1962ー25	1962
-------	-----------	------

斎藤 義重	作品	1962
-------	----	------

山口 長男	屏形	1963
-------	----	------

白髪 一雄	作品	1963
-------	----	------

菅井 汲	ナショナル・ルート No.11	1964
------	-----------------	------

中西 夏之	紫・むらさき XIX	1983
-------	------------	------

難波田 龍起	原初の風景B	1987
--------	--------	------

加納 光於	繁み・運動・エレメント	1988
-------	-------------	------

アド・ラインハート	No.114	1950
-----------	--------	------

サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
----------	------------	------

モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
----------	---------	-----------

ジョーゼフ・アルパース	正方形頌	1962
-------------	------	------

フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
----------	-------------------	------

アントニ・タビエス	コンポジション	1977
-----------	---------	------

堀 浩哉	風の音へー84-2	1984
------	-----------	------

堀 浩哉	水の肌へー84-2	1984
------	-----------	------

百瀬 寿	Square-NE XIV: Twelve Stripes E	1987
------	---------------------------------	------

松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
-------	---------------	------

根岸 芳郎	1997/11/18	1997
-------	------------	------

〈彫刻・立体〉

堀内 正和	四角と丸の組合せb	1956
-------	-----------	------

ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-1966
-------------	------	-----------

ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
-----------	-----------------	------

秋山 陽	Pho II	1990
------	--------	------

6室 テーマ展 中澤英明「子供の顔」

中澤 英明	「子供の顔 クマ」はじめ27点	2001-2004
-------	-----------------	-----------

7室 現代の日本画

〈絵 画〉		
-------	--	--

小山 硬	天草	1974
------	----	------

片岡 球子	面構(国貞・種彦)	1980
-------	-----------	------

嶋谷 自然	阿蘇	1981
-------	----	------

吉田 善彦	雨余桂林	1982
-------	------	------

田淵 俊夫	すぎばやし	1989
-------	-------	------

平山 郁夫	楼蘭の遺跡(昼)	1990
-------	----------	------

東山 魁夷	雪の山郷	1991
-------	------	------

8室 現代の日本画

水谷 勇夫	担夫	1960
-------	----	------

星野 真吾	喪中の作品(昇天)	1965
-------	-----------	------

三上 誠	機構の生理 窓51	1970
------	-----------	------

高畑 郁子	聖界	1980
-------	----	------

小嶋 悠司	穢土	1985
-------	----	------

岡村 桂三郎	朱雀	1993
--------	----	------

岡村 桂三郎	白虎	1993
--------	----	------

前室、ロビー

〈絵 画〉		
-------	--	--

青木 繁	太田の森	1902
------	------	------

青木 繁	海	1904
------	---	------

大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
--------	-------	------

荻須 高德	線路に面した家	1955
-------	---------	------

〈彫刻・立体〉		
---------	--	--

オシップ・ザッキン	チェロのトルソ	1956-1957
-----------	---------	-----------

ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
舟越 桂	肩で眠る月	1996
アレクサンダー・コールドー	片膝ついて	1944
アレクサンダー・コールドー	ゴースト	1976

屋外展示スペース		
〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984

加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

■2004(平成16年)度 第Ⅲ期

境界をこえてー20世紀の美術(全館所蔵作品展)

20世紀の美術は、19世紀以前にはとても予想しえなかったような広がりや展開をみせた。そこには美術の「境界」をこえた発見や冒険があった。この展覧会では「境界」をキーワードにして、20世紀の美術のもつ特質を際立たせることを試みた。

展覧会は4つの部分で構成した。まず第1章では、展覧会の導入として20世紀の美術がこえた「境界」として、主題(美術のテーマ)を取り上げた。具体的には、人間の内面世界に鋭い眼差しを向けた表現主義的な傾向、また無意識の世界という新たな領域を開拓したシュルレアリスム、そして具体的な事物を再現しない抽象美術などを、それまでの美術がもっていた「境界」をこえることで、20世紀の美術が獲得した新しい表現世界として取り上げた。第2章では、国境や文化をこえて展開した美術に焦点をあてた。ここでは、国境はもちろん、民族や文化の伝統といった空間的な「境界」をこえて展開した美術を紹介した。第3章では美術のジャンル、素材や技法という側面を取り上げた。20世紀美術の特徴のひとつに、新たな素材や技法の開拓をあげることができる。絵画や彫刻や版画といったジャンルの枠組みをこえた作品などが生まれた。このようなジャンルの境界をこえた作品、あるいは既成品や廃物などを使った作品、そして新たな素材としての音や光やビデオを使った作品などを紹介した。そして第4章では、20世紀の美術が、美術表現そのもののなかに「境界」を内在させるにいたった動向を取りあげた。ここでは、例えば開と閉、内と外、地上と地下といった対立する構造をもっていたり、あるいはそうした構造を概念的に提示した作品などをとりあげた。

20世紀の美術、それはさまざまなかたちで「境界」をこえ、そこに新たな境界領域を創出してきたと見ることができる。その動向をコレクションによって構成したこの展覧会は、20世紀の美術を振り返り、21世紀の美術の行方について思いめぐらすひとつの機会となったと考えている。

前期(2004(平成16)12月18日ー2005(平成17)2月29日)

展示室1		
【1章 主題をこえて】		
パウル・クレー	蛾の踊り	1923
メダルド・ロッソ	病める子	1893
パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
アンリ・マティス	待つ	1921-1922
エミール・ノルデ	静物I(アマゾン、能面等)	1915
エルnst=レーヴ化=キルナー	ガラスのある静物	1912
ケーテ・コルヴィッツ	青い服の女工	1903
エーリヒ・ヘッケル	疲れ	1913
エミール・ノルデ	騎士	1906

エゴン・シーレ	しゃがみこむ女	1914
グスタフ・クリムト	人生は戦いなり (黄金の騎士)	1903
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900
パウル・クレー	女の館	1921
パウル・クレー	回心した女の墮落	1939
古賀 春江	夏山	1927
ジョアン・ミロ	絵画	1925
マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ポール・デルヴォー	こだま(あるいは「街路の神秘」)	1943
ヴァシリー・カンディンスキー	鏡	1907
オスカー・ココシュカ	夢見る少年たち	1908

パブロ・ピカソ	マックス・ジャコブ「聖マトレ」挿絵	1902
ジョルジュ・ブラック	コンポジション(静物I)	1912
ジョルジュ・ブラック	コンポジション(ガラスのある静物)	1912
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912
展示室2		
ジャコモ・パッラ	太陽の前を通過する水星(習作)	1914
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
神原 泰	生命の流動	1924
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
オノサト・シノブ	三つの黒	1958

桑山 忠明	茶白青	1968
菅井 汲	National Route No.11	1964
恩地 孝四郎	リック No.24	1953
瑛九	黄色い花	1957-1958
村井 正誠	Cite B	1940
難波田 龍起	萌	1961
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
堀内 正和	四角と丸の組合せb	1955

【2章 国境・文化をまたいで】

ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927
アメデオ・モデリアーニ	カリアティード	1911-1913
藤田 嗣治	青衣の少女	1925
長谷川 潔	プロヴァンスの古市(グラス)	1925
長谷川 潔	一樹(ニレの樹)	1941
長谷川 潔	花(切りガラスに挿したアネモネと草花)	1944-1945
長谷川 潔	瓶の秋草(ピエド・シェブル)	1959
長谷川 潔	メキシコの鳩 静物画	1966
長谷川 潔	骸子独楽と幸福の星	1961
長谷川 潔	小鳥と落葉	1959
長谷川 潔	メキシコの種子草 静物画	1967
長谷川 潔	飼い馴らされた小鳥	1962
長谷川 潔	狐と葡萄	1963
長谷川 潔	『竹取物語』挿絵	1934
山本 芳翠	月下の裸婦	1882-1886頃

黒田 清輝	暖き日	1897
久米 桂一郎	秋景	1892
青木 繁	海	1904
山下 新太郎	白耳義の少女	1909
梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909
梅原 龍三郎	横臥裸婦	1908
安井 曾太郎	婦人像	1912頃
荻原 守衛	女の胴	1907
中村 彝	少女裸像	1914
河野 通勢	自画像	1917
小出 橋重	N 婦人像	1918
鬼頭 鍋三郎	マドモワゼルM	1954
伊藤 廉	肘をつく女	1929
前田 寛治	褐衣婦人像	1925
佐分 真	裸婦	1930頃
海老原 喜之助	雪山と樵	1930
野口 弥太郎	門	1931頃
荻須 高德	路面に面した家	1955
林 武	ノートルダム	1960
堂本 尚郎	絵画 1962-25	1962
田淵 俊夫	風のしじまNo.1	1991
高田 博厚	女のトルソ	1937
猪熊 弦一郎	マンハッタンA	1966
猪熊 弦一郎	地図の中の日曜日	1979

国吉 康雄	荒天	1936
国吉 康雄	帽子の女	1920頃
北川 民次	岩山に茂る	1940
北川 民次	メキシコ三童女	1937
浜田 知明	刑場A	1954
浜田 知明	仮標	1954
鬼頭 鍋三郎	梧州警備隊	1944
香月 泰男	海(ビーチカ)	1966
香月 泰男	ナホトカ	制作年不詳
安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938
川島 理一郎	フィリピン服の少女	1943頃
前田 青邨	朝鮮五題 水汲	1939

【3章 ジャンル、素材と技法をこえて】

クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52、美容	1920
ベン・ニコルソン	1933(スペインの松葉書のあるコラージュ)	1933
ハンス(ジャン)・アルプ	森	1917頃
ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界	1959-1966
アンディー・ウォーホル	レディーズ・アンド・ジェントルマン	1975
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965
ジム・ダイン	芝刈機	1962
クリスト・ヤバチェフ	旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包	1986
久野 真	Relief Painting (2)	1997
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
ロバート・ラウシェンバーク	プレヴェー(白霜エディション)	1974

オシップ・ザッキン	チェロのトルソ	1956-1957
カジミール・マレーヴィチ	飛行機と汽車にはおなじみの人間の同時的な死(『機』より)	1913
カジミール・マレーヴィチ	折り 第21葉『爆』より	1913
荒木 高子	砂の聖書	1983
加納 光於	アララットの舟あるいは空の蜚(Ep.2)	1971-1972
加納 光於	アララットの舟あるいは空の蜚(No.4)	1971-1972
加納 光於	木夫(ジュマル)よ、お前が彼面に見たものを語れ	1997
加納 光於	木夫(ジュマル)よ、お前が彼面に見たものを語れ	1997

展示室3

【3章 ジャンル、素材と技法をこえて】

バク・ヒョンギ	ブルー・ダイニング・テーブル	1995
---------	----------------	------

前室1

【3章 ジャンル、素材と技法をこえて】

山口 勝弘	港 No.2	1967
-------	--------	------

展示室4

【3章 ジャンル、素材と技法をこえて】

上田 薫	なま玉子	1976
フランツ・ゲルチュ	ナターシャⅣ	1987-1988
森村 泰昌	Dancer2	1988
斎藤 義重	作品	1962
白髪 一雄	作品	1963
下村 良之介	鼓舞	1964
百瀬 寿	Square-NE XIV: Twelve Stripes E	1987
田窪 恭治	廃墟	1985

アントニ・タビエス	コンポジション	1977
千崎 知恵夫	無題	1992

展示室5

【4章 境界の構造化】

ルーチョ・フォンターナ	空間概念	
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
辰野 登恵子	Aug.-Oct. 1992	1992
北山 善夫	はなはだ大きいというべきである	1984
イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン	1962
戸谷 成雄	地霊	1990
ジョーゼフ・アルパース	正方形顔	1962
山田 正亮	Work No.B 182	1958
根岸 芳郎	97-11-18	1997
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
アド・ラインハート	No.114	1950
若林 奮	大気中の緑色に属するものⅠ	1982

展示室6

【3章 ジャンル、素材と技法をこえて】

ユク・クンピョン	Sound of Landscape-Eye for Field-Survival's History	1995
----------	---	------

展示室7

【3章 ジャンル、素材と技法をこえてー日本画】

小林 古径	洗濯場 その1	1926
小林 古径	洗濯場 その2	1926

速水 御舟	西郊小景	1923
小茂田 青樹	漁村早春	1921
小茂田 青樹	柿	1919頃
小茂田 青樹	薄雪鳩	1930頃
山元 春挙	溪山暮靄図	1897頃
横山 大観	飛泉	1900頃
菱田 春草	紅葉山水	1908
前田 青邨	雨の蘇州	1919頃
入江 波光	南欧小景	1923
伊東 深水	大島の黎明	1916
東山 魁夷	雪の山郷	1991
工藤 甲人	坐忘	1982
加山 又造	黒い鳥	1957

展示室8

【木村定三コレクション 茶の湯】

浦上 玉堂	月晴山更静・独望平遠図 江戸時代、19世紀初め	
浦上 玉堂	閑日微陰図 江戸時代、1800-1810年代	
浦上 玉堂	高下数家図 江戸時代、1800-1820年代	
浦上 玉堂	雲山模倣図 江戸時代、1800-1810年代	
	織田有楽書状 桃山時代、16-17世紀	
	美濃伊賀耳付花入 桃山時代、17世紀	
	蒟醬香合 タイ、制作年不詳	
	古染付魚香合 明時代	
大西 浄久	大耳釜 江戸時代、17世紀	

	砂張鉄鉢水指	16-17世紀
	南蛮芋頭水指	16-17世紀
	宗旦小棗	江戸時代、17-19世紀
杉木 普斎	竹茶杓 銘水仙 共筒	江戸時代、17世紀
	唐物天目 銘西湖	元時代、14世紀
	屈輪天目台	元一明時代、14世紀
	大井戸茶碗 銘明の井戸	李朝時代、16世紀
	熊川茶碗	李朝時代、16世紀
	蕎麦茶碗 銘一ツ物	李朝時代、16世紀

	安南遊魚図茶碗	ベトナム、17世紀
	志野茶碗 銘鵬	桃山時代、17世紀
	黒織部茶碗 銘 五月雨	桃山時代、17世紀
	唐物青貝唐花文丸盆	元時代、14世紀
	染付花文振出	明時代、16-17世紀
	砂張小鉢	16-17世紀
	青磁雲鶴徳利	李朝時代、16世紀
	阿蘭陀葉形酒盃	オランダ、18世紀
	古染付巻貝向付	明時代、17世紀

	三島小鉢	李朝時代、15世紀
	シャム 花籠	タイ、制作年不詳

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉

コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑠郎	大地	1992

■2004(平成16)年度 第Ⅲ期

万国博覧会の開催にあわせて、コレクションの柱である20世紀の美術の展示とともに、地元、愛知の美術を紹介するシリーズの1回目として「戦前の洋画」を特集した。また、木村定三コレクションでは、開催中の企画展「自然をめぐる千年の旅」にあわせて、風景表現に焦点をあてた。

後期(2007年3月11日-5月18日)

展示室5 20世紀の美術

〈絵 画〉

パブロ・ピカソ	青い肩掛けの女	1902
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	1911-1913
ピエール・ボナール	子供と猫	1906頃
ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913頃
アンリ・マティス	待つ	1921-1922
ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海Ⅰ	1927
フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919
ジャック・ヴィヨン	存在	1920
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912

グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)	1903
エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)	1915
藤田 嗣治	青衣の少女	1925
海老原 喜之助	ゲレンデ	1930
村井 正誠	ゴルフジュアン船	1929
野口 弥太郎	門	1931頃
小出 楠重	蔬菜静物	1925
里見 勝蔵	婦人像(画家の妻)	1937
佐分 真	横たわる婦人	1932頃
小林 和作	薔薇咲くカプリ島	1928
ジョアン・ミロ	絵画	1925
ポール・デルヴォー	こたま(あるいは「街路の神秘」)	1943

マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954
ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	1928
パウル・クレー	女の館	1921
ベン・ニコルソン	1903(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933
アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン	1975
サム・フランシス	消失に向かう地点の青	1958
モーリス・ルイス	デルタ・ミュー	1960-1961
アド・ラインハート	No.114	1950
桑山 忠明	茶白青	1968
アントニ・タビエス	コンボジション	1977
斎藤 義重	作品	1962
中西 夏之	紫・むらさき XIX	1983

加納 光於	繁み・運動・エレメントB	1988
宇佐美 圭司	ビッグ・パン	1987
フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969
〈彫刻・立体〉		
アレクサンダー・アーチベンコ	歩く女	1912
ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカル肖像	1965
ルイズ・ニューヴェルソン	漂う天界	1959-1966
オーギュスト・ロダン	歩く人	1900

展示室6 現代の絵画

〈絵 画〉		
辰野 登恵子	Untitled 95-1	1995
根岸 芳郎	1997/11/18	1997
堀 浩哉	水の肌へー84・2	1984
松本 陽子	光は荒野の中に拡散している	1993
杉戸 洋	the Rainbow Wall	2002

展示室7 愛知の美術Ⅰー戦前の洋画ー

〈絵 画〉		
鈴木 不知	山畑	1910
太田 三郎	婦人像	1915頃
加藤 静児	渚	1910
大沢 鉦一郎	大曾根風景	1919
宮脇 晴	自画像	1920
宮田 重雄	バリ・サンルイ病院裏	1930
横井 礼似	室内静物	1926

佐分 真	インドの女	1930
松下 春雄	二人のポーズ	1933
中野 安次郎	樹氷	1936
鬼頭 鍋三郎	浴後	1938
坂井 範一	浴後	1936
鬼頭 夔二郎	裸婦	1926
北川 民次	メキシコ三童女	1937
尾沢 辰夫	鴨	1938

展示室8 木村定三コレクション室ー風景表現ー

〈絵 画〉		
長谷川 利行	霊岸島の倉庫	1937
長谷川 利行	伊豆大島	1937
富岡 鉄斎	暁山雲図	1923
岡本 柳南	武陵烟霏図	1927頃
岡本 柳南	松深大古図	1928頃
西村 五雲	後庭初夏	1937
土田 麦僊	春昼	制作年不詳
小川 芋銭	沼四題 檜原	1922年
小川 芋銭	沼四題 泥鰌打	1922
小川 芋銭	沼四題 家鴨小屋	1922
小川 芋銭	沼四題 小蝦網	1922
香月 泰男	ナホトカ	1961
香月 泰男	海(ペーチカ)	1966
〈前 期〉		

熊谷 守一	漁村	1954
熊谷 守一	土饅頭	1954
熊谷 守一	石亀	1957
〈後 期〉		
須田 剋太	東大寺	1981
須田 剋太	東京夜景	1983

ロビー、ラウンジ

〈絵 画〉		
青木 繁	海	1904
山口 長男	庭	1935
山田 光春	蠡	1937
大澤 海蔵	晩夏	1934
〈彫刻・立体〉		
ヴァルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913
アレクサンダー・コールダー	片膝ついて	1944
アレクサンダー・コールダー	ゴースト	1976

屋外展示スペース

〈彫刻・立体〉		
コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983
アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984
加藤 昭男	大地	1986
小田 襄	円柱の構造	1988
今井 瑾郎	大地	1992

テーマ展（小企画展）

『中澤英明「子供の顔」』

会期 10月8日－12月5日

会場 展示室 6

担当学芸員 長屋菜津子

出品点数 27点

中澤英明は1955年に新潟県に生まれ、1981年に東京藝術大学大学院美術研究科（油彩技法材料研究室）修了。同研究室助手を経て、1986年より名古屋芸術大学美術学部へ勤務。現在は助教授の職にある。停滞することのない制作を30年以上続けているにもかかわらず、作家としての中澤の知名度はそれほど高いものではなかった。

しかし一方において、中澤英明という名前自体の知名度は決して低いものではなかった。東京藝大在学中よりその油彩技法の知識と技術は群を抜いており、将来を注目される人物であったし、愛知県に移住し大学職員となった後も、「油彩技法の先生」としては、他の大学からも講師としての招聘依頼が殺到するなど、確実に評価を高めていたのである。しかし皮肉なことに「油彩技法の先生」としての評価が固まるのと反比例して、作家としての側面は忘れられようとしていたといえよう。が、中澤が積極的でなかったのは発表活動であり、制作活動そのものではない。着実な制作活動を積み重ねていたことは、蓄積されていた作品が何より証明している。

今回、愛知県美術館がこのような作家の制作活動を取りあげ広く紹介したことは、美術館活動の一つの意義として評価されたことを付記する。

なお、このテーマ展で発表された27点の作品は、この後、東京の画廊でも発表がされ、全国紙の新聞や雑誌などにも取り上げられた。

関連事業

友の会主催 会員限定講座「油絵のマチエール」

11月4日（木） 午後5時から 講師：中澤英明

主要関連記事

【雑誌】

石崎勝基 「Review 中澤英明「子供の顔」展」

『リア』No.9 2005年冬号

- | | | | |
|----|-------------------------|-------|-------------------|
| 1 | 子供の顔－ウサギ | 2003年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 2 | 子供の顔－人参 | 2003年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 3 | 子供の顔－丁髷 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 4 | 子供の顔－玉子 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 5 | 子供の顔－アヒル | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 6 | 子供の顔－鴨 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 7 | 子供の顔－栗饅 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 8 | 子供の顔－寝ぐせ | 2003年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 9 | 子供の顔－ベサメ・ムーチョ（いっぱいキスして） | 2003年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 10 | 子供の顔－風人（ふうと） | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 11 | 子供の顔－ドラセナ・マッサン（幸福の樹） | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 12 | 子供の顔－蟻螂 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 13 | 子供の顔－地藏 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 14 | 子供の顔－オレンジのTシャツ | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 15 | 子供の顔－アーモンド | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 16 | 子供の顔－鯨 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、和紙・板 |
| 17 | 子供の顔－米 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 18 | 子供の顔－審判 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 19 | 子供の顔－π | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 20 | 子供の顔－ザビエル | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 21 | 子供の顔－初園（ういば） | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 22 | 子供の顔－真魚（まお） | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 23 | 子供の顔－クマ | 2001年 | テンペラ・油彩・石膏地、寒冷紗・板 |
| 24 | 子供の顔－ペコちゃん | 2001年 | テンペラ・油彩・石膏地、寒冷紗・板 |
| 25 | 子供の顔－への字 | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 26 | 子供の顔－おしぼり | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |
| 27 | 子供の顔－ボンボン | 2004年 | テンペラ・油彩・白亜地、綿布・板 |



移動美術館

教育普及活動の一環として、名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会などの事業を行う移動美術館を年1回開催している。これまで9回開催し、本年度は蒲郡市で開催した。

- 第1回 1995年度 南知多町総合体育館・サブアリーナ
- 第2回 1996年度 足助町トレーニングセンター
- 第3回 1997年度 渥美町郷土資料館
- 第4回 1998年度 奥三河総合センター体育館（設楽町）
- 第5回 1999年度 吉良町農村環境改善センター
- 第6回 2000年度 新城文化会館（新城市）
- 第7回 2001年度 立田村総合体育館
- 第8回 2002年度 高浜市やきものの里かわら美術館
- 第9回 2003年度 西尾市総合体育館

名称：愛知県美術館 平成16年度 移動美術館 「青・色々 海の碧、空の蒼、山の緑」

主催：愛知県美術館、(財)愛知県文化振興事業団、蒲郡市・蒲郡市教育委員会

会期：平成16年7月3日（土）～8月8日（日）〔32日間〕

会場：蒲郡市博物館

観覧料：無料

担当学芸員：古田 浩俊、藤島 美菜

観覧者数：7,383人（1日平均230人）

展示内容および展示点数：

蒲郡市のシンボルカラーである「青」を基調とし、明治から現代の洋画を中心に彫刻と海外の作品を加えて展示。総点数47点。

第1展示室

1	エドワード=ジョン・ポインター	世界の若かりし頃	1891年
2	山本 芳翠	西洋裸婦	1882年頃
3	黒田 清輝	花と猫	1906年
4	宮脇 晴	自画像	1920年
5	青木 繁	太田の森	1902年
6	岸田 劉生	高須光治君之肖像	1915年
7	梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909年
8	安井 曾太郎	承德喇嘛廟	1938年
9	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906年
10	林 俊衛	サント・ヴィクトワール	1925年
11	坂本 繁二郎	海岸の家	1915年



12	小林 和作	薔薇咲くカプリ島	1928年
13	エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭	1935年
14	アンドレ・ボーシャン	フィアンセを訪ねて	1928年
15	清水 登之	森に憩う人	1929年
16	伊藤 廉	肘をつく女	1929年
17	松下 春雄	草原	1928年
18	大沢 鉦一郎	少女海水浴	1932年
19	広本 季与丸	バレリーナ	1951年
20	海老原 喜之助	ゲレンデ	1930年
21	香月 泰男	散歩	1953年
22	エミール＝アノトワヌ・ブルデル	両手のペー トーベン	1908年

第2展示室

23	北川 民次	タスコからの眺望	1933年
24	福沢 一郎	海	1942年
25	野口 弥太郎	摩周湖	1939年
26	里見 勝蔵	風景（ベルヌイユの村）	1964年頃
27	林 武	ノートルダム	1960年
28	児島 善三郎	伊豆の海	1951年
29	杉本 健吉	宇治川	1973年
30	鬼頭 鍋三郎	紫威花	1963年
31	音部 幸司	虹	1956年
32	尾崎 良二	残照の海	1975年
33	奥谷 博	貝と河豚	1966年
34	桂 ゆき	人と魚	1954年
35	須田 剋太	村祭	1985年
36	村井 正誠	ゴルフジュアンの船	1950年
37	木村 忠太	マルヌ河の運河	1967年
38	瑛九	白い輪	1954年
39	山口 勝弘	ヴィトリヌ	1955年
40	山田 光春	蠡	1937年
41	島田 章三	人と植物のようす	1994年
42	檀田 伸也	通り過ぎた風景	1991-93年
43	田淵 安一	風のしじまNo.1	1991年
44	三尾 公三	Fiction Space (x)	1974年
45	宇佐美 圭司	遠い歩み	1964年
46	百瀬 寿	Square-NE XIV:Twelve Stripes	1987年
47	高田 博厚	女のトルソ	1937年

教育普及行事

記念講演会

「美術のたのしみ」村田 真宏（愛知県美術館美術課長）

7月11日（土）午後1時30分～3時

蒲郡市民会館 1F 大会議室

ギャラリー・トーク（展示解説）：

愛知県美術館学芸員が会場で展示作品の解説

一般向け

7月10日（土）、17日（土）

いずれも午後1時30分～2時30分まで

学校向け

蒲郡市内の小・中学生の学校団体を中心に実施。



三県立美術館による協同企画展の実施状況

愛知、岐阜、三重三県立美術館の所蔵作品による協同企画「20世紀美術に見る人間展」を三重県立美術館で開催した。この展覧会は地域に蓄積された美術館コレクションの魅力を広く知ってもらうとともに、一般的な企画展とは違った展覧会の可能性をさぐることを目的としたもので、今後、岐阜県美術館（18年度）、愛知県美術館（19年度）と継続して開催する予定である。

名称：愛知・岐阜・三重三県立美術館協同企画

「20世紀美術にみる人間」展

主催：三重県立美術館、愛知県美術館、岐阜県美術館

会期：2004年10月23日（土）～12月12日（日）

入場者数：6,526人（1日平均 152人）

関連事業

パネルディスカッション

パネリスト：白石和己（三重県立美術館長）

市川政憲（愛知県美術館長）

古川秀昭（岐阜県美術館長）

日時：11月6日（土） 午後2時から

会場：三重県立美術館講堂

ギャラリートーク

11月13日（土） 毛利伊知郎（三重県立美術館）

11月20日（土） 山本敦子（岐阜県美術館）

11月27日（土） 村田真宏（愛知県美術館）

内容

人間が絵を描き、彫刻をつくり始めたその最初の時から今日に至るまで、時代や地域を問わず、その主題の中心となったのは人間自身であった。そして絵画、彫刻、写真などをはじめとして多くの方法と形式で人間は表現されてきた。人間が人間を造形化した作品、そこには制作する主体である人間、その制作者が考えた人間、そして表現された人間像を見る私たち鑑賞者という二重三重の人間が存在する他、作品に表された人間と鑑賞者との関係、作品を介した鑑賞者同士の関係等々、多くの人間関係が広がっている。

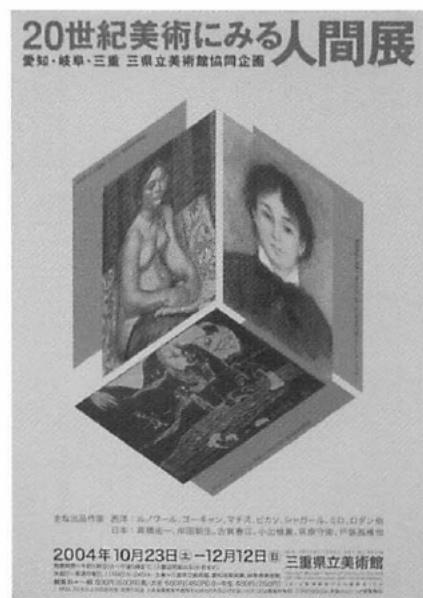
人間像の展開の中で、とりわけ19世紀後半から20世紀は革新的な造形表現の動向と呼応して、新たな人間像が数多く生み出された時代であったといえる。それは、近現代の社会と人間が直面した多くの根源的な問題の反映でもあった。本展は、三県立美術館のコレクションから19～20世紀の西洋と日

本の人間を主題とする絵画と彫刻を通じて、近現代美術の諸相を展望するとともに、21世紀という新しい時代の中で人間が人間を表現する意味を改めて考察しようとするものであった。

展示作品（愛知県美術館分）

1	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり（黄金の騎士）	1903年
2	エミール・ノルデ	自画像	1908年
3	エドゥアール・グイヤール	窓辺の女	1898年
4	ピエール・ボナール	にぎやかな風景	1913年頃
5	アンリ・マティス	待つ	1921-22年
6	パブロ・ピカソ	青い肩かけの女	1902年
7	パブロ・ピカソ	男の顔	1912年
8	パブロ・ピカソ	男と犬	1914年
9	パブロ・ピカソ	ギターを持つ男	1915年
10	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954年
11	ポール・デルヴォー	こだま（あるいは「街路の神秘」）	1943年
12	パウル・クレー	回心した女の墮落	1939年
13	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953年
14	オーギュスト・ロダン	歩く人	1900年
15	エミール=アントワヌ・ブールデル	ペネロープ	1909年
16	エルンスト・バルラッハ	母なる大地 II	1920年
17	ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち II	1913年
18	エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12年
19	山本 芳翠	西洋裸婦	1882年頃
20	山下 新太郎	白耳義の少女	1909年
21	梅原 龍三郎	若き羅馬人	1909年
22	大沢 鉦一郎	自画像	1919年
23	佐伯 祐三	自画像	1917年
24	中村 彝	少女裸像	1914年
25	岸田 劉生	斎藤与里氏像	1913年
26	木村 莊八	壺を持つ女	1915年
27	河野 通勢	自画像	1917年
28	宮脇 晴	自画像	1920年
29	小出 楯重	N婦人像	1918年
30	古賀 春江	夏山	1927年
31	国吉 康雄	帽子の女	1920年
32	満谷 国四郎	裸婦	1930年
33	長谷川 利行	ノアノアの少女	1937年
34	野口 弥太郎	門	1931年頃
35	林 武	婦人像	1940年
36	矢橋 六郎	女の肖像	1936年
37	北川 民次	メキシコ三童女	1937年

38	桂	ゆき	人と魚	1954年
39	鳥海	青児	うづくまる	1954年
40	小山田	二郎	愛	1956年
41	福沢	一郎	王・王妃及び見者	1959年
42	山口	薫	ボタン雪と騎手	1953年
43	森	芳雄	女たち	1954年
44	中村	正義	ピエロ	1963年
45	荻原	守衛	女の胴	1907年
46	戸張	孤雁	立てる女	1911年
47	本郷	新	無事の民「仏生」	1970年
48	舟越	保武	シオン	1966年



企画展

1992年度から2004年度までの企画展一覧

年度	展覧会タイトル	会 期		日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
92年度	フォーヴィスムと日本近代洋画	92.10.30	92.12.20	45	41,343	918.7
	近代の日本画ー西洋との出会いと対話	93.01.05	93.02.11	33	26,166	792.9
	20世紀愛知の美術	93.02.19	93.03.21	27	11,585	429.1
	年度合計			105	79,094	753.3
93年度	パウル・クレーの芸術	93.04.02	93.05.23	45	103,239	2294.2
	小川芋銭展	93.06.04	93.07.04	27	26,106	966.9
	現代の陶芸1950ー1990展	93.07.16	93.08.22	33	13,153	398.6
	安田靉彦展	93.09.03	93.10.17	39	43,003	1102.6
	リール市美術館所蔵ーバロック・ロココの絵画	93.10.29	94.01.16	63	47,042	746.7
	戸張孤雁と大正期の彫刻	94.01.25	94.03.06	36	7,996	222.1
	色彩の宇宙 クブカ展	94.03.18	94.05.08	45	33,652	747.8
	年度合計			288	274,191	952.1
	累 計			393	353,285	898.9
94年度	杉本健吉展	94.05.14	94.06.02	17	19,568	1151.1
	シカゴ美術館展ー近代絵画の100年ー	94.06.10	94.07.24	38	89,204	2347.5
	レジェ展	94.08.05	94.09.11	33	22,793	690.7
	聖なるかたち 後期ゴシックの本彫と板絵ーアーヘン市立ズエルモント＝ルードヴィヒ美術館所蔵	94.09.23	94.11.03	37	27,976	756.1
	没後20年 香月泰男展	94.11.18	95.01.16	46	27,164	590.5
	アンドリュース・ワイエス展ーアメリカの郷愁 心の風景を描く	95.02.03	95.04.02	51	120,177	2356.4
	年度合計			222	306,882	1382.4
	累 計			615	660,167	1073.4
95年度	ウィーンのジャポニスム	95.04.11	95.05.14	30	27,803	926.8
	フランツ・ゲルチュ	95.05.26	95.07.02	33	22,392	678.5
	環流ー日韓現代美術展	95.07.14	95.09.03	45	25,072	557.2
	ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	95.09.15	95.10.15	27	68,439	2534.8
	表現主義彫刻	95.10.27	96.01.15	64	12,428	194.2
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点	96.02.02	96.04.07	57	16,599	291.2
	年度合計			256	172,733	674.7
	累 計			871	832,900	956.3
96年度	大英博物館所蔵イタリア素描展	96.04.19	96.05.26	33	30,973	938.6
	抽象表現主義展ーアメリカ黄金期の絵画	96.07.26	96.09.16	46	19,005	413.2
	富岡鉄斎展ー理想郷を語る	96.09.27	96.11.10	39	25,680	658.5
	北川民次展ー愛と人間をえがく	96.11.22	97.01.26	51	28,789	564.5
	カンディンスキーとミュンター 愛と創造の日々 1901-1917	97.02.08	97.03.16	32	22,891	715.3
	没後50年 ボナール展	97.03.28	97.05.18	45	54,094	1202.1
	年度合計			246	181,432	737.5
	累 計			1,117	1,014,332	908.1
97年度	理智と幻想のシュルレアリスト 北脇 昇展	97.05.30	97.07.13	39	15,951	409.0
	モダンデザインの父 ウィリアム・モリス展	97.07.25	97.08.31	33	54,835	1661.7
	20世紀美術の冒険ーセザンヌ、ファン・ゴッホから現在までーアムステルダム市立美術館コレクション展	97.09.12	97.11.03	46	31,750	690.2
	イタリア美術 1945ー1995 ー見えるものと見えないもの	97.11.14	98.01.15	48	16,739	348.7
	近代美術の100年ー愛知県美術館コレクションの精華ー	98.01.30	98.03.08	33	17,985	545.0
	川合玉堂展 ーめぐりゆく季節ー	98.03.20	98.05.05	41	70,936	1730.1
	年度合計			240	208,196	867.5
	累 計			1,357	1,222,528	900.9

年度	展 覧 会 タ イ ト ル	会 期	日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)	
98年度	久野真・庄司達展―鉄の絵画と布の彫刻―	98.05.15	98.06.07	21	10,236	487.4
	ナイアガラの虹を越えて… オルブライト＝ノックス美術館展 名画への誘い	98.06.19	98.08.02	39	66,342	1701.1
	生誕100年記念 佐伯祐三展	98.08.16	98.09.27	37	39,972	1080.3
	アルトウング展	98.10.09	98.12.13	57	18,845	330.6
	没後50年 松本竣介展	99.01.08	99.02.21	39	24,551	629.5
	ブッサンとラファエッロ 借用と創造の秘密	99.03.05	99.04.11	33	13,387	405.7
	年度合計			226	173,333	767.0
	累 計			1,583	1,395,861	881.8
99年度	魔法の庭…詩とかたちのフーガ「ファウスト・メロッティ展」	99.04.23	99.06.13	45	13,614	302.5
	前田寛治の芸術 ―詩情と造形―	99.07.02	99.08.22	45	14,851	330.0
	危機の時代と絵画 1930―1945	98.09.03	98.10.17	39	8,379	214.8
	生誕100年 関根正二展	99.10.29	99.12.12	39	22,719	582.5
	セザンヌ展	00.01.05	00.03.12	59	171,060	2899.3
	年度合計			227	230,623	1016.0
	累 計			1,810	1,626,484	898.6
	00年度	レンブラント・フェルメールとその時代 アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術展	00.04.07	00.06.18	63	104,226
田中恭吉展		00.07.15	00.08.27	38	22,788	599.7
加納光於展		00.09.15	00.11.05	45	11,606	257.9
アメリカン・ドリームの世紀展		00.11.23	01.01.28	52	25,390	488.3
岸田劉生展		01.02.09	01.04.01	45	38,752	861.2
年度合計				243	202,762	834.4
累 計				2,053	1,829,246	891.0
01年度		メルツバッハー・コレクション展	01.04.13	01.05.27	39	47,245
	ロダンと日本	01.06.22	01.08.19	51	57,339	1124.3
	バックミンスター・フラー展	01.09.14	01.11.04	45	10,962	243.6
	ボンベイ展	02.02.08	02.04.07	51	101,367	1987.6
	年度合計			186	216,913	1166.2
	累 計			2,239	2,046,159	913.9
02年度	開館10周年記念 大英博物館所蔵フランス素描展	02.04.26	02.06.30	57	25,638	449.8
	開館10周年記念 韓国の色と光	02.07.26	02.09.23	52	10,652	204.8
	開館10周年記念 ミロ展	02.10.04	02.12.01	51	83,084	1629.1
	開館10周年記念 中西夏之展	02.12.20	03.02.23	51	14,525	284.8
	年度合計			211	133,899	634.6
	累 計			2,450	2,180,058	889.8
03年度	菱田春草展	03.04.11	03.05.18	33	53,578	1623.6
	戸谷成雄 森の驍の行方	03.06.06	03.07.27	45	12,934	287.4
	レオン・スピリアル展	03.08.05	03.09.23	43	15,674	364.5
	空海と高野山	03.10.10	03.11.24	40	109,612	2740.3
	中村彝の全貌展	04.01.06	04.02.29	48	20,004	416.8
	年度合計			209	211,802	1013.4
	累 計			2,659	2,391,860	899.5
04年度	ベン・ニコルソン展	04.04.09	04.05.23	39	10,855	278.3
	野見山暁治展	04.06.04	04.07.19	40	7,310	182.8
	国吉康雄展	04.08.06	04.09.26	45	24,702	548.9
	木村定三コレクションによる熊谷守一展	04.10.08	04.12.05	51	17,555	344.2
	自然をめぐる千年の旅 ―山水から風景へ―	05.03.11	05.05.08	51	63,052	1236.3
	年度合計			226	123,474	546.3
	累 計			2,885	2,515,334	871.9

「自然をめぐる千年の旅」展（3/11～3/31〈18日間〉）の入場者数は11,317人であり、実質の16年度入場者数は71,739人（一日：372人）

2004(平成16)年度の企画展開催状況

『ベン・ニコルソン展』

会 期 2004年4月9日(金)～5月23日(日) 39日間

主 催 愛知県美術館／中日新聞社

後 援 ブリティッシュ・カウンシル／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

協 力 日本航空

担当学芸員 古田浩俊、村上博哉

総入場者数：10,855人(1日平均入場者数：278人)

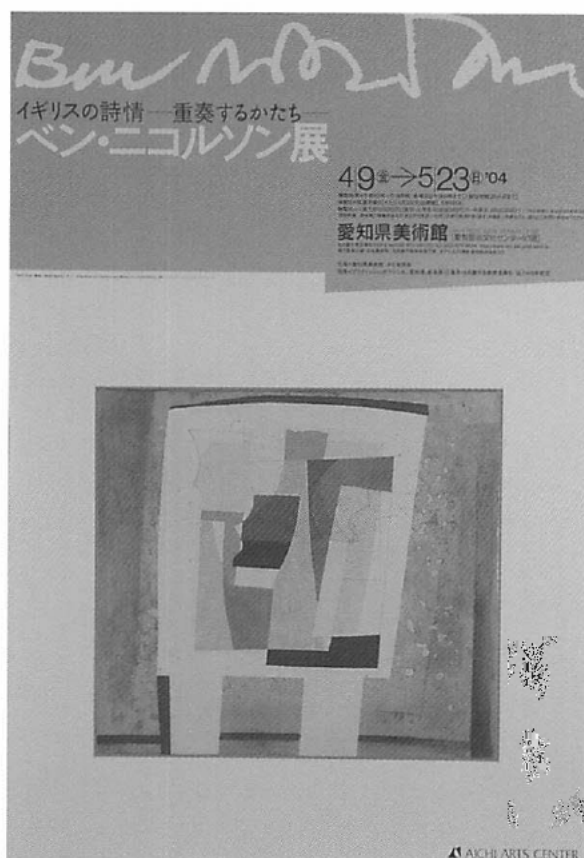
内容と結果 出品点数：87点

ニコルソン研究の第一人者であるジェレミー・ルイソン氏監修によるこの国際的な規模の回顧展は、2002年にパレンシアで開催された回顧展に次ぐものである。国内では1992-93の回顧展以来約10年ぶりのニコルソン展であった。初期から晩年までの作品は、様式的に具象(古典的、素朴派的)・半具象から抽象(モンドリアン風、レリーフ)までを含み、技法・形状については油彩画やそれにコラージュしたもの、レリーフ、立体があり、大きさも手のひらに乗るものから2mを超す大作まであり、ニコルソン芸術の多様性を見せることができた。「ある美術家の経年変化報告書のような回顧展」(田中三蔵)とも評された。それらの作品はイギリスのテートからの9点をはじめ、アメリカ、カナダ、ポルトガル、スイスの美術館や個人から借用したものを核にし、とりわけ外国の個人が所蔵する作品がかなり含まれていた。さらに日本国内の美術館が所蔵する重要作品はほとんど出品され、それらの多くは1930年代の具象から抽象へと変化していく重要な時期の作品でもあった。日本との関係でいえば、1955年の第3回国際美術展で東京都知事賞を受賞した個人所蔵の作品も出品された。展示に際しては、展示室全体にわたり壁面をパネルで覆ってしまうことをはじめて試みた。その結果、ニコルソンの作品特有のデリケートな性質がまわりから干渉されずに、落ち着いた展示空間を創出できた。この展覧会のような巡回展では難しいことではあるが、展覧会カタログと展覧会の広報印刷物のデザインを統一することで、鑑賞者に統一的な展覧会のイメージをもってもらう一助となった。ニコルソンの知名度が低いためなのか、予定した観客の動員数には至らなかったが、質量ともに充実した内容の展覧会として評価された。

展覧会カタログ：

A4判変形(タテ29.5×ヨコ23.3cm) 172ページ

編 集 神奈川県立近代美術館／愛知県美術館／東京ステーションギャラリー



発行 東京新聞

関連事業：

○記念講演会

2004年5月1日（土） 午後1時30分から

講師：古田浩俊（愛知県美術館主任学芸員）

演題：「ベン・ニコルソンの芸術」 120名

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

第1回 2004年4月16日（金） 午前11時から

講師：古田浩俊 18名

第2回 2004年4月24日（土） 午前11時から

講師：村上博哉 25名

第3回 2004年5月7日（金） 午前11時から

講師：村上博哉 25名

第4回 2004年5月15日（土） 午前11時から

講師：古田浩俊 36名

○小・中・高校の先生方との鑑賞学習交流会

2004年5月8日（土） 午前10時から 20名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2004年4月15日（木） 午前10時30分から／午後5時30分

から 講師：古田浩俊 22名／22名

巡回先

神奈川県立近代美術館 19,500人（1日平均入場者数：453人）

東京ステーションギャラリー 16,935人（1日平均入場者数：338人）

主要関連記事

【新聞】

島田章三 「重奏するかたち 上」

『中日新聞』2004年4月14日

はな 「重奏するかたち 中」

『中日新聞』2004年4月16日

太田治子 「重奏するかたち 下」

『中日新聞』2004年4月17日

古田浩俊 「ベン・ニコルソン展 1」

『中日新聞』2004年5月13日

古田浩俊 「ベン・ニコルソン展 2」

『中日新聞』2004年5月14日

村上博哉 「ベン・ニコルソン展 3」

『中日新聞』2004年5月15日

村上博哉 「ベン・ニコルソン展 4」

『中日新聞』2004年5月16日

古田浩俊 「ベン・ニコルソン展 5」

『中日新聞』2004年5月17日

田中三蔵 「揺らぐ作風、一貫した詩情」

『朝日新聞』2004年3月18日夕刊

『野見山暁治展 うつろうかたち』

会 期 2004年6月4日（金）～7月19日（月・祝）40日間

主 催 愛知県美術館／日本経済新聞社

後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

助 成 財団法人 地域創造

担当学芸員 牧野研一郎、村上博哉

総入場者数：7,310人（1日平均入場者数：183人）

内容と結果 出品点数：89点

野見山暁治は1920年に福岡県に生まれ、東京美術学校を卒業後ただちに徴兵され、戦後まもなく制作活動を再開した。1952年から12年間フランスで生活し、ヨーロッパ絵画の伝統に対峙しながら自己の絵画のあり方を探り、現実の光景を解体、変容させながら自然に内在する生命と運動をとらえることに方向を見いだした。それ以来、同時代の絵画の潮流には距離をおきながら独自の探求を続け、今日も日本を代表する画家のひとりとして精力的な活動を行っている。

この展覧会は、油彩画69点・素描20点を「ボタ山の再発見ー自然と人工のせめぎあい」〈ヨーロッパー日本 かたちへのとまどい〉〈空、海、風ーうつろう自然と向き合って〉の3章に分けて展示し、東京美術学校在学中の作品から2002～2003年の最近作にいたる野見山の絵画の展開を辿った。会場には、制作の背景や動機に触れながら鑑賞できるよう、それぞれの時代の活動と作品に関する作家の言葉をパネルで紹介した。一見とらえがたく、しかし生命感にあふれる一連の最近作が、鑑賞者の関心をもっとも引きつけていたようである。

なお、2004年度から、共催者の合意が得られた場合には小・中学生の企画展観覧料を無料とする方針を定め、この展覧会で小・中学生無料を初めて実施した。

展覧会カタログ：

A4判変形（タテ28.9×ヨコ22.5cm） 164ページ

編 集 東京国立近代美術館／愛知県美術館／日本経済新聞社

発 行 日本経済新聞社

関連事業：

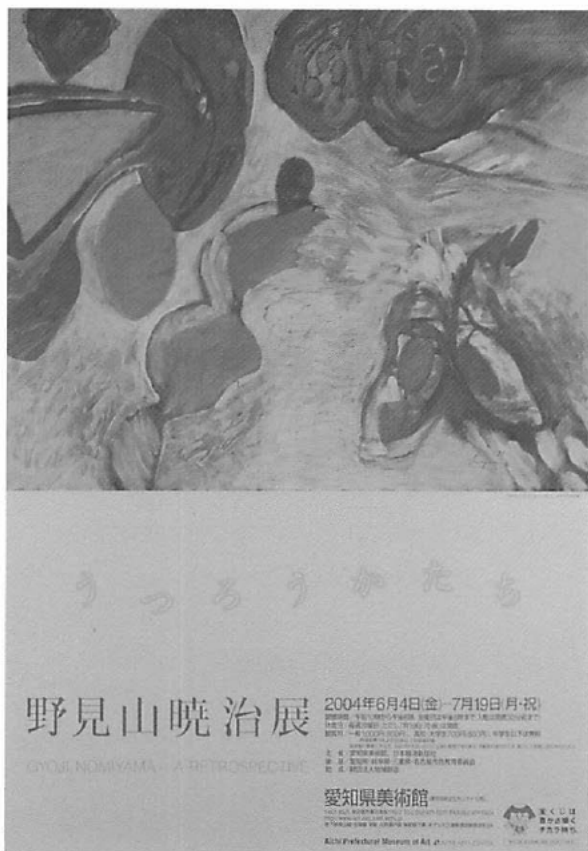
○記念講演会

2004年6月5日（土） 午後1時30分から

講 師：市川政憲（愛知県美術館館長）

演 題：「野見山暁治の絵 あるいは〈風景〉について」

90名



2004年6月12日（土） 午後1時30分から

講 師：野見山曉治

演 題：「自作を語る」 275名

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

第1回 2004年6月19日（土） 午前11時から

講 師：牧野研一郎 20名

第2回 2004年6月26日（土） 午前11時から

講 師：牧野研一郎 20名

第3回 2004年7月2日（金） 午後6時から

講 師：村上博哉 21名

第4回 2004年7月10日（土） 午前11時から

講 師：村上博哉 22名

○小・中・高校の先生方との鑑賞学習交流会

2004年6月12日（土） 午後3時30分から

講 師：牧野研一郎 20名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2004年6月24日（木） 午前10時30分から／午後5時30分

から 講 師：牧野研一郎 20名／23名

巡回先

東京国立近代美術館 30,884人（1日平均入場者数：643人）

大分市美術館 4,361人（1日平均入場者数：115人）

富山県立近代美術館 6,077人（1日平均入場者数：138人）

主要関連記事

【新聞】

野見山曉治 「私の履歴書」

『日本経済新聞』2004年5月1日～5月31日朝刊

「野見山曉治画伯の回顧展 奔放な筆致90点」

『日本経済新聞』2004年6月3日朝刊

「LOOK&るっく 野見山曉治展」

『日本経済新聞』2004年6月10日夕刊

「初期から最新作まで 野見山曉治さん回顧展」

『日本経済新聞』2004年6月26日朝刊

浅野 徹 「美術 野見山曉治展 奔放な筆線、大型作品に
圧倒」

『中日新聞』2004年7月7日朝刊

『国吉康雄展』

会 期 2004年8月6日（金）～9月26日（日）45日間
主 催 愛知県美術館／NHK名古屋放送局／NHK中部ブ
レーンズ

後 援 外務省・文化庁・アメリカ大使館・愛知県・岐阜県・
三重県・名古屋市各教育委員会

担当学芸員 高橋秀治、深山孝彰

総入場者数：24,702人（1日平均入場者数：549人）

内容と結果 出品点数：129点

没後50年を迎えた国吉康雄（1889－1953）は、1906（明治39）年17歳でひとりアメリカに渡った。その後ほとんど日本に帰ることなく活動した彼は、晩年の1952年には第26回ヴェネチア・ビエンナーレのアメリカ代表にも選ばれたように、アメリカを代表する画家として認められるようになった。しかし国吉が生きたのは、日本人移民排斥、大恐慌、第二次世界大戦と、アメリカ社会が激しく揺れ動き、日米関係も厳しい時代であった。自由と民主主義の理想を掲げるアメリカを信じた彼は、日本人であることで苦しみも味わった。現在よりはるかに偏見と差別があからさまだった困難な時代にあったからこそ、国吉は国や人種を超えた普遍的な人間のありように希望を託し、制作しつづけたともいえる。

この展覧会では油彩、写真合わせて作品数129点の展覧会構成を、それぞれおおまかに時代と制作活動の変遷に対応して三つの章（第1章いのちの海岸、第2章社会の荒海、第3章いのちの島の建設）に分けて展示した。さらに、そうした時代と国吉の想いを読み解く手がかりとして、会場に国吉の言葉を提示し、作品解説も通常よりも多く付したり、配布した鑑賞ガイドにも工夫を凝らした。

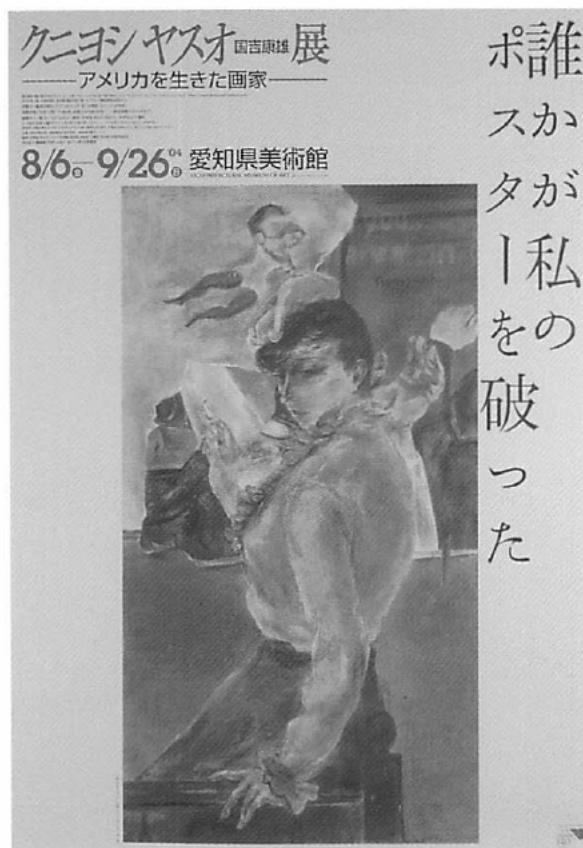
その結果、多くの観客が時間をかけて丁寧に見入る姿が目立ち、好評を得た。また、共催者がNHKであり、広範囲な広報もできたので夏休み時期ということもあって遠方からの来館者もあった。さらに小中学生無料としたことで、夏休みの期間中は特にこれまでの展覧会に比べ小中学生の来館者が多かった。

展覧会カタログ：

A5判変形（タテ24.6×ヨコ18.4cm） 208ページ

編 集 東京国立近代美術館／富山県立近代美術館／愛知県美術館

発 行 東京国立近代美術館／富山県立近代美術館／愛知県美術館／NHK／NHKプロモーション



関連事業：

○記念講演会

- 第1回 2004年8月7日（土） 午後1時30分から
講 師：市川政憲（愛知県美術館館長）
演 題：「国吉康雄の夢の島」 104名
- 第2回 2004年8月21日（土） 午後1時30分から
講 師：小澤善雄（アメリカ文化研究家）
演 題：「国吉康雄—アメリカ人として、芸術家として」 106名
- 第3回 2004年9月4日（土） 午後1時30分から
講 師：フレデリック・ハリス（画家）
演 題：「ソーシャル・リアリズム1930—1950」
103名
共 催：名古屋アメリカンセンター

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

- 第1回 2004年8月6日（金） 午後6時から
講 師：市川政憲 28名
- 第2回 2004年8月11日（水） 午前11時から
講 師：高橋秀治 24名
- 第3回 2004年8月19日（木） 午前11時から
講 師：高橋秀治 25名
- 第4回 2004年9月11日（土） 午前11時から
講 師：深山孝彰 25名

○小・中・高校の先生方との鑑賞学習交流会

- 2004年8月7日（土） 午後3時30分から
講 師：高橋秀治 11名

○友の会会員のための特別鑑賞会

- 2004年8月12日（木） 午前10時30分から／午後5時30分
から 講 師：高橋秀治 24名／24名

巡回先

- 東京国立近代美術館 37,291人（1日平均入場者数：746人）
富山県立近代美術館 8,348人（1日平均入場者数：186人）

主要関連記事

【新聞】

- （陽） 「美術 国吉康雄展」
『中日新聞』2004年8月12日夕刊
- （無署名） 「クニヨシヤスオ展 愛知県美術館 日米で不安定
な境遇 戦争の世相を映す」
『日本経済新聞』2004年8月19日夕刊

- 浅野 徹 「美術 華やかな色彩に孤独な心情 国吉康雄展」
『中日新聞』2004年9月1日朝刊
- 中村英樹 「ART CLIP⑩ 国吉康雄展のタイミング」
『NZU ART&DESIGN NEWS（名古屋造形芸術
大学）』2004年9月1日

【雑誌】

- 飯沢耕太郎 「写真のリアリティとリアリズム—国吉康雄の試
み」
『美術の窓』2004年6月号
- 油井一人 「国吉康雄展を見て」
『新美術新聞』2004年4月11日



第3回記念講演会

『木村定三コレクションによる 熊谷守一展』

会 期 2004年10月8日（金）～12月5日（日） 51日間

主 催 愛知県美術館／日本経済新聞社

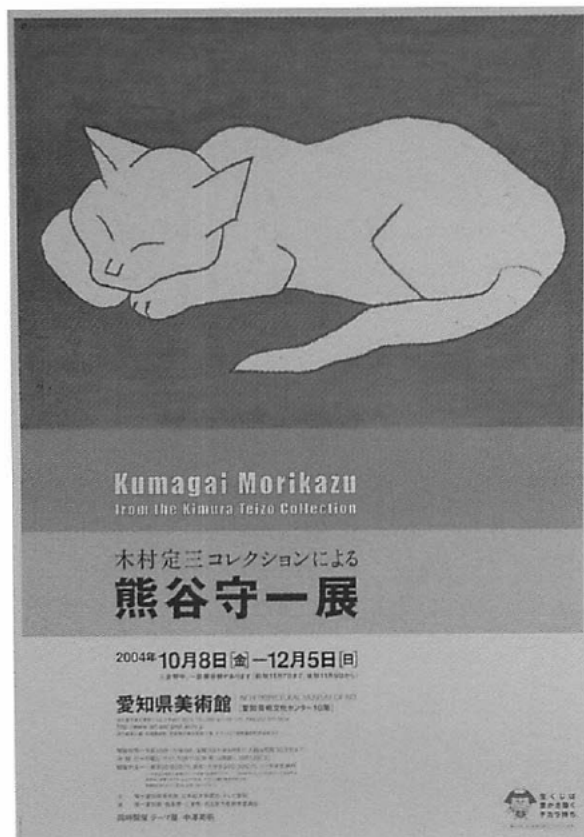
後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

担当学芸員 古田浩俊、村田真宏

総入場者数：17,555人（1日平均入場者数：344人）

内容と結果 出品点数：220点

木村定三（1913-2003）は無名の画家であった熊谷守一（1880-1977）の才能をいち早く評価し、熊谷が没するまで支援し続けた。そうした理由から木村定三コレクションのなかで、熊谷守一の作品群は質量ともに傑出している。一個人のコレクションであったために、それらは一般にはなかなか公開されることはなかった。そのなかには油彩画の代表作はもとより、日本画や書、彫刻や焼物への絵付けなど200点を超える作品、また資料としては写真や書簡などが含まれており、この展覧会では未公開作品を含めてそれらを一堂に公開した（会期半ばで36点展示替え）。木村定三コレクションはこれまで所蔵作品展のなかで展示することはあったが、この展覧会は木村コレクションをはじめて企画展として紹介するものであった。木村定三が生前に熊谷守一美術館に寄贈した《自画像》と最後の油彩画《アゲ羽蝶》を同館から借用できたため、木村定三がコレクションした熊谷守一作品の全貌にいっそう迫ることができた。展示は年代順ではなく、主題・モチーフごとに作品をまとめたため、見やすかったという来観者の意見が多かった。木村定三は熊谷について多くの文章を残しており、それらを作品解説として展示に使用することで、観客が作品を理解する一助となった。展覧会に合わせて刊行したカタログには、木村定三コレクションに含まれる熊谷守一作品すべての写真とデータを掲載しており、今後刊行される木村定三コレクションの部門別カタログの最初のものとなった。ほぼ同時期に岐阜県美術館でも熊谷展を開催しており、お互いに広報物を置き合うあうなど、広報面で相互協力できた。予定した観客の動員数には至らなかったが、あらためてコレクター木村定三とそのコレクションの凄さを認識する展覧会であった。



展覧会カタログ：

B5判変形（タテ26×ヨコ19cm） 152ページ

編 集 愛知県美術館／求龍堂

発 行 愛知県美術館

関連事業：

○記念講演会

- 第1回 2004年10月16日（土） 午後1時30分から
講 師：山脇一夫（金城学院大学教授）
演 題：「熊谷守一の芸術」 122名
- 第2回 2004年11月13日（土） 午後1時30分から
講 師：熊谷榎（守一次女、熊谷守一美術館館主）
聞き手：村田真宏（愛知県美術館美術課長）
演 題：「父、守一を語る」 290名



第2回記念講演会

○学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

- 第1回 2004年10月15日（金） 午後6時から
講 師：村田真宏 18名
- 第2回 2004年10月21日（木） 午前11時から
講 師：古田浩俊 15名
- 第3回 2004年11月2日（火） 午前11時から
講 師：森 美樹 16名
- 第4回 2004年11月18日（木） 午前11時から
講 師：古田浩俊 16名

○小・中・高校の先生方との鑑賞学習交流会

- 2004年10月16日（土） 午後3時30分から
講 師：高橋秀治 18名

○友の会会員のための特別鑑賞会

- 2004年10月14日（木） 午前10時30分から／午後5時30分
から 講 師：古田浩俊 23名／31名

主要関連記事

【新聞】

- 浅野 徹 「美術『熊谷守一展』」
『中日新聞』2004年10月6日
- （無記名） 「熊谷守一展」
『読売新聞』2004年10月15日
- 山脇佐江子 「愛知県美術館『熊谷守一展』」
『日本経済新聞』2004年11月4日
- （無記名） 「コレクターの鑑」
『美じょん新報』第62号 2004年11月20日
- 宝玉正彦 「熊谷守一展」
『日本経済新聞』2004年11月24日

『自然をめぐる千年の旅 ―山水から風景へ』

会 期 2005年3月11日（金）～5月8日（日） 51日間

主 催 財団法人2005年日本国際博覧会協会／愛知県／愛知県
美術館／中日新聞社／NHK名古屋放送局／NHK中部
ブレインズ／日本経済新聞社

特別協力 文化庁／独立行政法人国立博物館／独立行政法人国
立美術館／独立行政法人文化財研究所

後 援 愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会

担当学芸員 牧野研一郎、馬淵美帆、深山孝彰

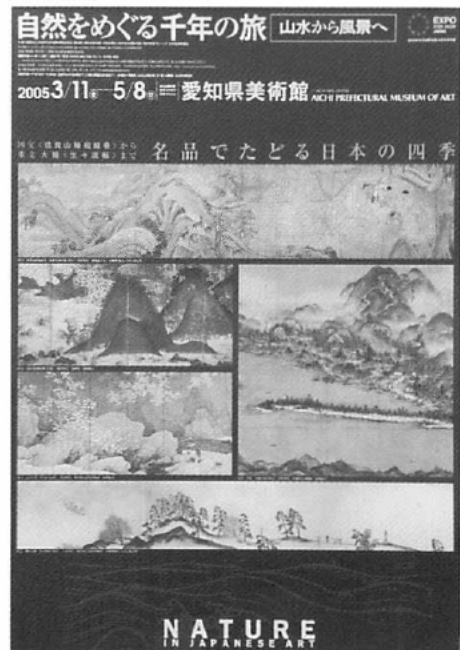
総入場者数：63,052人（1日平均入場者数：1236.3人）

2004年度内 11,317人（一日平均628.7人）



内容と結果 出品点数：156点

「自然の叡智」をメインテーマとした2005年日本国際博覧会（愛・地球博）の開幕に合わせて開催した本展は、古代から近代まで千年以上にわたる日本人と自然との関わりを、国宝・重文約70件をはじめとする日本美術の名品約160件によってたどった。海に囲まれ、緑と四季の変化に富む日本では、いわゆる山水画や風景画に限らず、各時代の多様な美術品の中に、人々の自然観が豊かに表現されている。この展覧会では、大陸経由の仏教文化が花開いた奈良時代から、西洋近代文明が移入された明治期そして昭和に到る各時代の重要な絵画作品を中心に、絵画的な意匠が施された染織や陶磁器・漆器などの工芸作品をあわせて紹介した。展示の構成は「聖なる自然」「理想の風景」「季節の中で」「動植物へのまなざし」「実在の場所―名所絵から風景画へ」という5つのテーマに分け、その中で各時代の表現を比較できるものとした。博覧会記念展として、作品所蔵者をはじめとする各方面の協力が得られ、日本美術の歴史的名品の数々を一堂に紹介でき、遠方からの来場者も多く集めることができた。



展覧会カタログ：

A4判変形（タテ30.0×ヨコ22.6cm） 330ページ

編 集 愛知県美術館

発 行 自然をめぐる千年の旅展実行委員会（愛知県美術館／中日新聞社／NHK名古屋放送局／NHK中部ブレインズ／日本経済新聞社）

制 作 印象社

関連事業：

○記念連続講演会

第1回 2005年3月19日（土） 午後1時30分～4時30分



講 師：中西 進（京都市立芸術大学学長）／
辻 惟雄（東京大学名誉教授）
演 題：「桜花をめぐって—美術と文学」 252名
第2回 2005年4月2日（土） 午後1時30分～4時30分
講 師：千足伸行（成城大学教授）／
小林 忠（学習院大学教授）
演 題：「美術の中の自然」 188名
第3回 2005年4月16日（土） 午後1時30分から
講 師：北澤憲昭（跡見学園女子大学教授）／
山梨絵美子（東京文化財研究所情報調整
室長）
演 題：「風景の成立をめぐって」 138名

○学芸員による展示説明会（スライド・レクチャー）

第1回 2005年3月24日（木） 午後1時30分～2時30分
講 師：馬淵美帆 40名
第2回 2005年3月31日（木） 午後1時30分～2時30分
講 師：馬淵美帆 60名
第3回 2005年4月7日（木） 午後1時30分～2時30分
講 師：馬淵美帆 50名
第4回 2005年4月14日（木） 午後1時30分～2時30分
講 師：深山孝彰 51名
第5回 2005年4月23日（土） 午後1時30分～2時30分
講 師：深山孝彰 45名
第6回 2005年4月28日（木） 午後1時30分～2時30分
講 師：深山孝彰 73名

○小・中・高校の先生方との鑑賞学習交流会

2005年4月23日（土） 午後3時～4時
講 師：深山孝彰 37名

○友の会会員のための特別鑑賞会

2005年3月17日（木） 午後5時30分から
講 師：牧野研一郎 41名
2005年4月14日（木） 午後5時30分から
講 師：深山孝彰 36名

主要関連記事

【新聞】

白木 緑 「風景画は時代のメディア」
『日本経済新聞』2005年2月26日
太田垣実 「時空を超え古今の名品一堂に」
『京都新聞』2005年3月19日

遠藤恒雄 「ぐるり展覧会 県美 国宝・重文など156件」
『名古屋タイムズ』2005年3月25日
河合隼雄 「時のおもひ 生の芸術作品に触れよう」
『中日新聞』2005年3月28日
田中真瑞 「山水から風景へ1 国宝 信貴山縁起絵巻
山崎長者の巻」
『中日新聞』2005年3月28日夕刊
中西 進 「エッセー 心のしおり 花涅槃」
『中日新聞』2005年3月29日
涌井雅之 「山水から風景へ2 日月山水図屏風 右隻」
『中日新聞』2005年3月30日夕刊
宝玉正彦 「表現の変化 名品にたどる」
『日本経済新聞』2005年3月30日
三田晴夫 「万博効果で名品一堂に」
『毎日新聞』2005年3月30日夕刊
織作峰子 「山水から風景へ3 伊藤若冲「果疏涅槃図」」
『中日新聞』2005年3月31日夕刊
黒田日出男 「山水から風景へ4 洛中洛外図屏風（甲本）
上京隻」
『中日新聞』2005年4月2日夕刊
田淵俊夫 「山水から風景へ5 横山大観「或る日の太平洋」」
『中日新聞』2005年4月4日夕刊
三沢典丈 「「自然をめぐる千年の旅」展で分かる 自然の
叡智」
『中日新聞』2005年4月7日夕刊
山脇佐江子 「日本人の自然観を映し出す」
『日本経済新聞』2005年4月14日夕刊
浅野 徹 「日本人の自然観問う大胆企画」
『中日新聞』2005年4月27日

【雑誌】

山下裕二 「選りすぐりの「日本美術に見る自然」」
『和楽』2005年3月号
橋本麻里 「日本の四季を見つめて」
『婦人公論』No.1173、2005年3/22号
山梨俊夫 「「自然をめぐる千年の旅」をめぐって」
『美術の窓』2005年3月号
北澤憲昭 「山水の記憶」
『芸術新潮』2005年3月号
山下裕二 「大人の修学旅行 愛知県美術館編」
『週間ポスト』2005年4月15日号
（無記名） 「美術館で「絶景かな」」
『芸術新潮』2005年4月号

教育普及

出版・発行

各企画展カタログ

- ・『ベン・ニコルソン』展 カタログ
29.5×23.2cm 172ページ
編集 神奈川県立近代美術館、愛知県美術館、東京ステーションギャラリー、東京新聞
発行 東京新聞
制作 アイメックス・ファイン・アート

本文

ベン・ニコルソン展に寄せて 酒井忠康
ベン・ニコルソン「リアル」の探求 ジェレミー・ルウィソン
Ben Nicholson- The Search for the Real Jeremy Lewison
図版
ニコルソンにとってのキュビズム、そして静物画—存在の具体性と逆説としての抽象— 是枝 開
《1933（スペインの絵葉書のあるコラージュ）—絵画とレリーフの狭間に— 古田浩俊
ベン・ニコルソン年譜 ジェレミー・ルウィソン編（村上博哉訳）
日本語文献 古田浩俊、村上博哉編

- ・『野見山曉治展』カタログ
28.9×22.4cm 164ページ
編集 都築千重子、鈴木勝雄（東京国立近代美術館）／市川政憲（愛知県美術館）
発行 日本経済新聞社
制作 エディタス

本文

《野見山曉治の「絵画」—降りてくる空》 市川政憲
《野見山曉治—生成する絵画》 都築千重子
図版
第1章 ボタ山の再発見—自然と人工のせめぎあい
第2章 ヨーロッパ—日本—かたちへのとまどい
第3章 空、風、海—うつろう自然と向き合って
野見山曉治年譜 後藤新治・鈴木勝雄編
主要参考文献 後藤新治・都築千重子編
The "Painting" by Gyoji Nomiya-The Descent of the Sky Masanori Ichikawa
Gyoji Nomiya and His Generating Paintings Chieko Tsuzuki

- ・『国吉康雄』展カタログ
24.5×18.4cm 208ページ
編集 東京国立近代美術館／富山県立近代美術館／愛知県美術館
発行 東京国立近代美術館／富山県立近代美術館／愛知県美術館／NHK
／NHKプロモーション
制作 日本写真印刷株式会社

本文

《国吉康雄の芸術—内なる国境》 市川政憲
《国吉康雄の不思議な空間》 蔵屋美香
図版
第1章 いのちの海岸
第2章 社会の荒波
第3章 いのちの島の建設
年譜 高橋秀治編
日本語文献 小澤律子 編
Bibliography Compiled by Ritsuko T. Ozawa
The Art of Yasuo Kuniyoshi-The Inner Borders Masanori Ichikawa
The Wondrous Space Created by Yasuo Kuniyoshi Mika Kuraya

- ・『熊谷守一』展カタログ
26.0×19.2cm 152ページ
編集 村田真宏／古田浩俊／森美樹（愛知県美術館）
鎌田恵理子／鹿山芳明（求龍堂）
発行 愛知県美術館
制作 求龍堂

本文

《木村定三コレクションの熊谷守一》 牧野研一郎



《熊谷さんの人間像》 木村定三

図版

作品目録

《熊谷さんの芸術》 木村定三

年譜

文献目録

・『自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ』展カタログ

30.0×22.5cm 230ページ

編集 愛知県美術館（牧野研一郎、馬淵美帆、深山孝彰）

発行 自然をめぐる千年の旅展実行委員会（愛知県美術館、中日新聞社、NHK名古屋放送局、NHK中部ブレイズ、日本経済新聞社）

制作 印象社

本文

《描かれた日本の自然》 辻惟雄

図版

第一章 聖なる自然「信仰と自然—鎌倉時代の絵画を主に—」

中島 博

第二章 理想の風景

河野元昭

第三章 季節の中で「季節の移ろう自然の中で」

小林 忠

第四章 動植物へのまなざし

馬淵真帆

第五章 実在の場所—名所絵から風景画へ—

佐藤康宏

「日本美術の実景描写—江戸時代まで—」

牧野研一郎

「近代黎明期の風景表現—高橋由一を中心に—」

作品解説

出品目録

Japanese Nature Represented in Art

TSUJI Nobuo

Chapter 1 Sacred Nature

Religion and Nature: focusing on paintings of the Kamakura period

NAKASHIMA Hiroshi

Chapter 2

Ideal Landscape

KONO Motoaki

Chapter 3

The Four Seasons

Within the Transition of Nature over the Seasons

KOBAYASHI Tadasa

Chapter 4

Eyes on Animals and Plants

MABUCHI Miho

Chapter 5

Actual Place: from pictures of scenic spots to landscape paintings

Depiction of Actual Scenery in Japanese Art-before the end of Edo period

SATO Yasuhiro

Landscape Painting at the Dawn of Modernity-With Focus on Takahashi Yuichi

MAKINO Kenichiro

・テーマ展（小企画展）

『中澤英明「子供の顔」』 冊子

29.6×21.0cm 8ページ

編集 愛知県美術館／長屋菜津子

本文

図版

所蔵作品展に関するもの

第Ⅰ期 前期 展示品リスト

A4判

第Ⅰ期 後期 展示品リスト

A4判

第Ⅱ期 前期 展示品リスト

A4判

第Ⅱ期 後期 展示品リスト

A4判

第Ⅲ期 前期 展示品リスト

A4判

第Ⅲ期 後期 展示品リスト

A4判

企画展鑑賞の手引き等

《ベン・ニコルソン》展

鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）

A4判4頁

《野見山暁治展》

鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）

B4判4頁

《国吉康雄展》

鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）

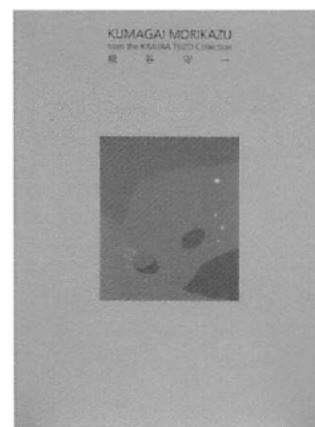
A4判4頁

音声ガイド（主要作品25点の解説）

《熊谷守一展》

鑑賞ガイド（主要な作品シリーズと展示コーナー解説）

A4判4頁



《自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—》展
鑑賞ガイド（全体と主要テーマの解説）

A4判4頁

講演会・講座等

企画展記念講演会

企画展ごとに研究者や作家あるいは学芸員などが記念講演会を行なった。各講演会とも関心が高かった。

- ・『ベン・ニコルソン展』記念講演会 5月1日（土） 午後1時30分から
演題「ベン・ニコルソンの芸術」
講師 古田浩俊（愛知県美術館主任学芸員） 聴講者数 120名
- ・『野見山峯治展—うつろうかたち』記念講演会
演題「野見山峯治の絵 あるいは「風景」について」
6月5日（土） 午後1時30分から
講師 市川正憲（愛知県美術館長） 聴講者数 90名

演題「自作を語る」
6月12日（土） 午後1時30分から
講師 野見山峯治（画家） 聴講者数 275名
- ・『国吉康雄展』記念講演会
演題「国吉康雄の夢の島」
9月6日（土） 午後1時30分から
講師 市川政憲（愛知県美術館長） 聴講者数 104名

演題「国吉康雄—アメリカ人として、芸術家として」
8月21日（土） 午後1時30分から
講師 小澤澤雄（アメリカ文化研究家） 聴講者数 106名

演題「ソーシャル・リアリズム 1930—1950」
9月4日（土） 午後1時30分から
講師 フレデリック・ハリス（画家） 聴講者数 103名
日米交流150周年記念 共催 名古屋アメリカンセンター
- ・『木村定三コレクションによる 熊谷守一展』記念講演会
演題「熊谷守一の芸術」
10月16日（土） 午後1時30分から
講師 山脇一夫（金城学院大学教授）

演題「父、守一を語る」
11月13日（土） 午後1時30分から
講師 熊谷権（守一次女、熊谷守一美術館館主）
聞き手 村田真宏（愛知県美術館美術課長） 聴講者数 290名
- ・『自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—』展記念講演会
演題「桜花をめぐる—美術と文学」
3月19日（土） 午後1時30分から
講師 中西進（京都市立芸術大学学長）／辻 惟雄（東京大学名誉教授） 聴講者数 252名
- ※演題「美術のなかの自然」 2005年4月2日（土） 午後1時30分から
講師 千足伸行（成城大学教授）／小林 忠（学習院大学教授） 聴講者数 188名
- ※演題「風景の成立をめぐる」 2005年4月16日（土） 午後1時30分から
講師 北澤憲昭（跡見学園女子大学教授）／山梨絵美子（東京文化財研究所情報調整室長） 聴講者数 138名
※開催日は次年度

連続講座

年に一度、テーマを設定して短期に集中的に講演会を行なう連続講座は、2004（平成16）年度は全体テーマを「愛知県美術館のコレクション研究—深く知ると、もっと見えてくる—」と題して開催した。

- ・第1回「クリムト《人生は戦いなり（黄金の騎士）》」 1月8日（土）午後2時から
講師 栗田秀法（名古屋芸術大学助教授） 聴講者数 95名
- ・第2回「クレー《蛾の踊り》」 1月22日（土）午後2時から
講師 寺門臨太郎（筑波大学大学院講師） 聴講者数 119名
- ・第3回「エルンスト《ポーランドの騎士》」 2月4日（金）午後6時から
講師 村上博哉（愛知県美術館主任学芸員） 聴講者数 48名



『ベン・ニコルソン展』記念講演会



『野見山峯治展』記念講演会 6月12日



『国吉康雄展』記念講演会 8月21日



『熊谷守一展』記念講演会 10月16日



『自然をめぐる千年の旅』記念講演会 3月19日



連続講座 第1回



連続講座 第2回

レクチャー&トーク

「現代作家 自作を語る シリーズ②」

昨年度から所蔵作品の紹介にも重点をおくように、所蔵作品のうちとくに現存作家に自らの制作活動や作品について語ってもらうシリーズを開始した。

演 題 「現代の絵画について」 12月18日（土）午後1時30分から

講 師 辰野登恵子（画家） 聴講者数 75名

場 所 アートスペースA（愛知芸術文化センター12F）および10階展示室



辰野登恵子 自作を語る

学芸員による展示説明会（ギャラリー・トーク）

各企画展ごとに担当学芸員が展示室において展示説明会を約1時間行なっている。

・『ベン・ニコルソン展』展示説明会

第1回	4月16日（金）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 18名
第2回	4月24日（土）	午前11時から	講 師 村上博哉	聴講者数 25名
第3回	5月7日（金）	午前11時から	講 師 村上博哉	聴講者数 25名
第4回	5月15日（土）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 36名

・『野見山暁治展—うつろうかたち』展展示説明会

第1回	6月19日（土）	午前11時から	講 師 牧野研一郎	聴講者数 20名
第2回	6月26日（土）	午前11時から	講 師 牧野研一郎	聴講者数 20名
第3回	7月2日（金）	午後6時から	講 師 村上博哉	聴講者数 21名
第4回	7月10日（土）	午前11時から	講 師 村上博哉	聴講者数 32名

・『国吉康雄展』展示説明会

第1回	8月6日（金）	午後6時から	講 師 市川政憲	聴講者数 28名
第2回	8月11日（水）	午前11時から	講 師 高橋秀治	聴講者数 24名
第3回	8月19日（木）	午前11時から	講 師 深山孝彰	聴講者数 25名
第4回	9月11日（土）	午前11時から	講 師 高橋秀治	聴講者数 25名

・『木村定三コレクションによる 熊谷守一展』展示説明会

第1回	10月15日（金）	午後6時から	講 師 村田真宏	聴講者数 18名
第2回	10月21日（木）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 15名
第3回	11月2日（火）	午前11時から	講 師 森美樹	聴講者数 16名
第4回	11月18日（木）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 16名

・『20世紀の美術—境界をこえて』展示説明会

第1回	12月21日（火）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 12名
第2回	1月14日（土）	午後6時から	講 師 村田真宏	聴講者数 12名
第3回	1月27日（木）	午前11時から	講 師 村田真宏	聴講者数 20名
第4回	2月10日（木）	午前11時から	講 師 古田浩俊	聴講者数 18名

・『自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—』展展示説明会（スライドレクチャー）

第1回	3月24日（木）	午後1時30分から	講 師 馬淵美帆	聴講者数 40名
第2回	3月31日（木）	午後1時30分から	講 師 馬淵美帆	聴講者数 60名
第3回	4月7日（木）	午後1時30分から	講 師 馬淵美帆	聴講者数 50名
第4回	4月14日（木）	午後1時30分から	講 師 深山孝彰	聴講者数 51名
第5回	4月23日（土）	午後1時30分から	講 師 深山孝彰	聴講者数 45名
第6回	4月28日（木）	午後1時30分から	講 師 深山孝彰	聴講者数 73名

各種プログラム

小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

対象：小学校・中学校・高校の教師

各企画展ごとに展覧会担当者による企画展説明会を行なうと同時に、美術館や学校での鑑賞教育について、アンケートの実施、実践発表、鑑賞会見学会などを通して、意見交換した。また、展覧会カタログのバックナンバーを参加者の学校図書館へ寄贈を行ない、多数の参加者があった。

・『ベン・ニコルソン』展	5月8日（土）午前10時30分から	参加者数15名
・『野見山暁治展—うつろうかたち』	6月12日（土）午後3時30分から	参加者数20名
・『国吉康雄展』	8月7日（土）午後3時30分から	参加者数11名
・『木村定三コレクションによる 熊谷守一展』	10月16日（土）午後3時30分から	参加者数18名
・『20世紀の美術—境界をこえて』展	1月22日（土）午後4時から	参加者数81名
・『自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—』展	4月23日（土）午後3時から	参加者数37名

児童、生徒を対象としたプログラム

・子ども鑑賞会「ショゾウサクヒンテン」

5月8日（土）午前10時から 対象 小学校4～6年 参加者数 13名
午後2時から 対象 小学校1～3年 参加者数 10名

・夏休み子ども鑑賞会

開催日	対象	参加者数
8月7日（土）午前10時から	小学校1, 2年	11名
8月10日（火）午前10時から	小学校3, 4年	7名
午後2時30分から	中学生	8名
8月11日（水）午前10時から	小学校5, 6年	8名
午後2時30分から	中学生	13名
8月18日（水）午前10時から	小学校3, 4年	10名
8月19日（木）午前10時から	小学校3, 4年	13名
午後2時30分から	小学校5, 6年	15名
8月20日（金）午前10時から	小学校1, 2年	8名
午後2時30分から	中学生	16名

視覚に障害のある方へのプログラム

プログラムは2日間全4回を実施する昨年と同様の形式のもののほか、盲学校生と卒業生を対象とした鑑賞会を開催した。鑑賞作品として、ロダン、ブールデル、ザッキン、戸張孤雁、高田博厚、柳原義達などの彫刻を触察し、絵画ではキルヒナーや小出楢重らの作品について、立体コピーなどをつかって鑑賞した（大文字と点字による解説書付）。

昨年度に名古屋YWCAで行なった講習を活かしてボランティアが作成した立体コピーを利用して鑑賞し、またあわせて企画展「戸谷成雄」の鑑賞案内も行なった。実施にあたっては「名古屋YWCA美術ガイドボランティアグループ」と点訳ボランティア「六点会」の協力を得た。このプログラムは楽しみにしているリピーターのほか口コミなどで新しい参加者もあった。

担当学芸員 深山孝彰 補助 ボランティア

開催日	参加者数（午前／午後）
9月16日（木）	5名／3名＋見学者2名
9月18日（土）	6名／9名＋ダウン症の児童2名

・盲学校生対象の鑑賞会

対象 名古屋・岡崎盲学校の児童、生徒および卒業生
8月21日（土） 参加者数 午前の部 10名 午後の部 11名

・中学校の総合学習への協力

YWCA美術ガイドボランティアグループとともにアートスペースA（愛知芸術文化センター12F）で講義後、生徒が6グループに分かれ、所蔵品展示室で視覚障害者に絵の説明をした。

対象 小牧市立桃陵中学校1年生 105名 実施日 11月10日（水）

団体鑑賞の対応

事前の申し込みのあった場合、事情の許す限り各種団体に対して学芸員が展示解説や美術館利用のガイダンス等を行なっている。毎年繰り返して来館する学校数が増えている。時期としては年度の終わりの3ヶ月間に集中する傾向がある。

	小学校	中学校	高校	大学	専門学校	一般	計
来館団体総数	14	8	1	5	1	14	44
上記の内学芸員が対応 （ギャラリー・トーク） した団体数（のべ人数）	11	6	1	5	1	11	36 (2107)

博物館実習等

博物館学芸員資格取得のための実習を希望者の中から選抜して受け入れを行なっている。本年度は6大学10名を受け入れた。

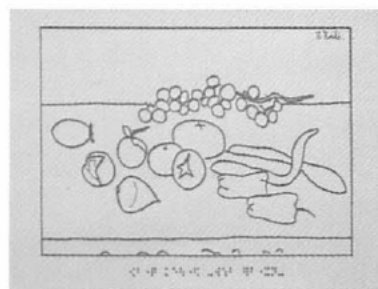
実習期間：2004（平成16）年7月26日～30日（5日間）

また、これとは別に長期にわたって定期的（1週間に1度を基本）に大学院生を中心に美術館研修生として受け入れを行なっている。本年度は1大学の院生4名学部生3名を受け入れた。研修生は主に藤井達吉コレクションや木村定三コレクションの資料整備、企画展に関わる実務、教育普及事業の実務に従事した。

研修期間：2004（平成16）年5月1日～2005年3月31日



キルヒナー作品立体コピー



小出作品立体コピー

友の会活動への運営協力

友の会会員のための特別鑑賞会

各企画展ごとに閉館後や平日の他の観覧者が少ない時間帯に会員向けの鑑賞会を開催し、担当学芸員が全体レクチャーのあと展示室でのギャラリー・トークを行なっている。

・『ベン・ニコルソン』展

4月15日（木）	午前10時30分から	講 師 古田浩俊	参加者数 22名
	午後 5 時30分から	講 師 古田浩俊	参加者数 22名

・『野見山暁治展—うつろうかたち』

6月24日（木）	午前10時30分から	講 師 牧野研一郎	参加者数 20名
	午後 5 時30分から	講 師 牧野研一郎	参加者数 23名

・『国吉康雄展』

8月12日（木）	午前10時30分から	講 師 高橋秀治	参加者数 24名
	午後 5 時30分から	講 師 市川政憲	参加者数 24名

・『木村定三コレクションによる 熊谷守一展』

10月14日（木）	午前10時30分から	講 師 古田浩俊	参加者数 23名
	午後 5 時30分から	講 師 古田浩俊	参加者数 31名

・『20世紀の美術—境界をこえて』展

1月13日（木）	午前10時30分から	講 師 市川政憲／村田真宏	参加者数 17名
	午後 5 時30分から	講 師 市川政憲／村田真宏	参加者数 20名

・『自然をめぐる千年の旅—山水から風景へ—』展

3月17日（木）	午後 5 時30分から	講 師 牧野研一郎	参加者数 41名
4月14日（木）	午後 5 時30分から	講 師 深山孝彰	参加者数 36名

その他

・会員向け講座

演 題「美術館を知ろう—バックヤードツアー—」

5月11日（火）	午前11時から／午後2時から	参加者総数 24名
5月13日（木）	午前11時から／午後2時から	参加者総数 26名
5月14日（金）	午後6時30分から	参加者数 16名

演 題「梅原龍三郎《横臥裸婦》」 7月29日（木）

講 師 浅野徹（名古屋芸術大学美術学部教授） 参加者数 54名

演 題「油絵のマチエール」 11月4日（木） 午後6時30分から

講 師 中澤英明（名古屋芸術大学美術学部助教授）

演 題「瀬戸のやきもの」 2月11日（火） 参加者数 42名

講 師 浅田員由（元愛知県陶磁資料館学芸部長）

・主な催し

ジャズコンサート 9月17日（金） 午後6時30分から

出演者 太田邦夫（ピアノ）、神田秀雄（ドラム）、加藤雅史（ベース）、

浜崎 航（サクソフ・フルート）生島謙一郎（トロンボーン）

参加者数 会員58名、一般24名

・支援事業

企画展支援：各企画展ごとに支援金を実行委員会に提供

・広報事業

企画展ポスター、チラシ等の宣伝材料の配布

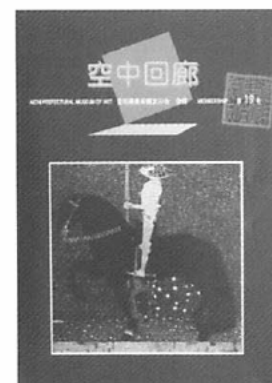
会報『空中回廊』No.18（2004年9月）、No.19（2005年2月）の発行



浅野徹氏講座



中澤英明氏講座



美術館活動に則した調査研究

- ・市川政憲 「境界をこえて—20世紀美術が目指したもの—」
『中日新聞』（平成17年1月）
- ・牧野研一郎 「木村定三コレクションの熊谷守一」『木村定
三コレクションによる熊谷守一展』図録（平
成16年10月）
「第五章 実在の場所——名所絵から風景画へ
近代黎明期の風景表現——高橋由一を中心に——」
『自然をめぐる千年の旅——山水から風景
へ——』展図録（平成17年3月）
- ・村田真宏 「美術館のコレクションとは」『20世紀美術にみ
る人間像』展図録（平成16年10月）
- ・鯨井秀伸 『近現代作家資料目録木下新一・山田光春アーカ
イヴ』鯨井秀伸編集、愛知県美術館（平成16年）
『近現代作家資料目録木下新一・山田光春アーカ
イヴ』鯨井秀伸編集 [コンピュータファイル（光
ディスク）] 愛知県美術館（平成16年）
- ・深山孝彰 「作品解説」『自然をめぐる千年の旅——山水か
ら風景へ——』展図録（平成17年3月）
- ・馬淵美帆 「第四章 動植物へのまなざし」「各章概説」「作
品解説」『自然をめぐる千年の旅——山水から風
景へ——』展図録（平成17年3月）

その他

- ・高橋秀治 「アンドリュース・ワイエスの作画技法」「オルソ
ン・ハウスの歴史—覚書」「年譜」「主要参考文献」
『アンドリュース・ワイエス オルソン・ハウス
水彩・素描』（丸沼芸術の森 平成16年4月）
- ・鯨井秀伸 「アンビエント覚書」『愛知県美術館研究紀要』
第11号（平成17年3月）
「イタリア素描の主題研究」『愛知県美術館研究
紀要』第11号（平成17年3月）
- ・村上博哉 「松本竣介研究—《画家の像》、《立てる像》、
《五人》《三人》の解説」（『鹿島美術研究』鹿島
美術財団年報21号別冊、平成16年11月）
「自己イメージの弁証法—松本竣介《画家の像》、
《立てる像》、《五人》《三人》の解説（上・下）」
（『美術研究』383・384号、東京文化財研究所、平
成16年8月・11月）
- ・深山孝彰 「久野利博とその空間」『リア』（no.8、2004秋）
- ・拝戸雅彦 展評「村岡三郎新作展」『リア』（no.8、2004秋）
「ケヴィン・モリソンとAtopia Projects、そして
N55」『リア』（no.9、2005冬）
展評「森北伸展」『リア』（no.9、2005冬）
- ・馬淵美帆 与謝蕪村《富嶽列松図》解説、河野元昭監修『美
JAPAN 富士山』（四季出版、平成17年3月）
- ・森 美樹 荻須高德《線路に沿った家》、林武《ノートルダ
ム》解説、高階秀爾監修『画家が歩いたヨーロッ
パ』（美術年鑑社、平成16年10月）

ギャラリー(貸館)

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。

なお、2004（平成16）年4月からは展示利用、会議利用、劇場利用の申し込み窓口及び施設管理を一元化し、管理部で所管することとなった。

2004（平成16）年（美術館の管理期間のみ）美術館ギャラリー利用状況

1 展示室利用状況

(単位：日数)

月別	区分	利用 可能 日数 a	利用 日数 b	利用 率 b/a	展示室別利用日数											
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	審査保管室	
															第 1	第 2
	16年 1 月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	16	7
	2 月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	8
	3 月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	8	22

2 展覧会種別利用状況及び入場者数

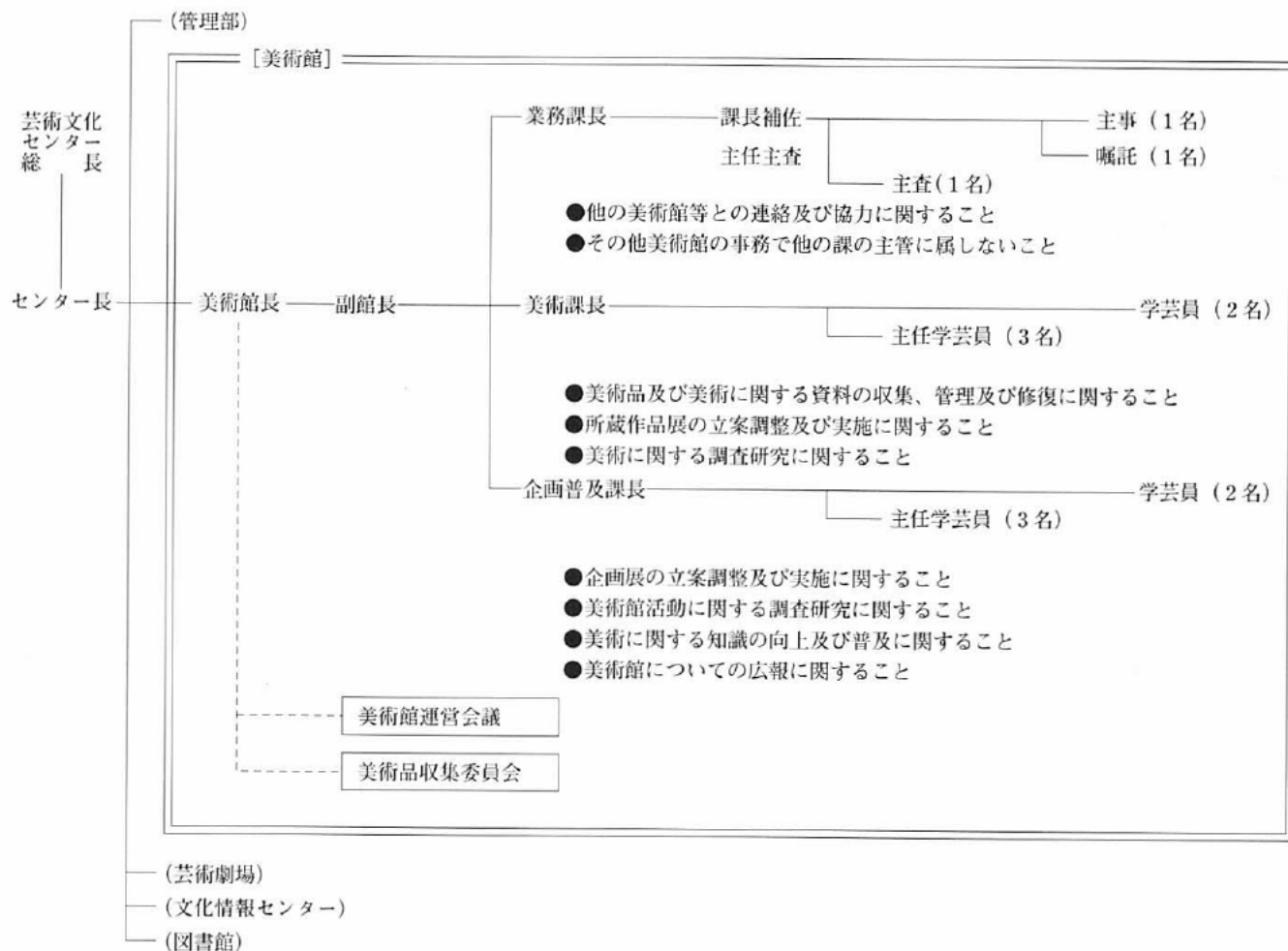
区分 月別	展覧会種別利用件数(件)								入場者数 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
16年1月	3	1	0	0	3	0	0	7	48,531
2月	2	1	0	1	2	1	0	7	111,335
3月	6	4	0	0	5	1	1	17	31,955

(注) 利用件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理した。

2004年上半期（美術館の管理期間のみ）展示室利用状況

[illegible]

1. 組織図



館長	市川政憲
副館長	牧野研一郎
業務課長	清水和彦
課長補佐	奥村 正
主任主査	石黒初美
主査	宇野美恵子
主事	石黒康二
嘱託	森 明美
美術課長	村田真宏
主任学芸員	古田浩俊
〃	鯨井秀伸
〃	拝戸雅彦
技師（学芸員）	長屋菜津子
〃	馬淵美帆
企画普及課長	木本文平
主任学芸員	高橋秀治
〃	村上博哉
〃	深山孝彰
技師（学芸員）	藤島美菜
〃	森 美樹

関係委員会名簿(2005年3月、50音順)

愛知県美術館運営会議委員名簿

	氏 名	職 名(所 属)
	浅野 徹	名古屋芸術大学教授
	内山 武夫	美術評論家
○	江本 菜穂子	名古屋造形芸術大学教授
	岡部 あおみ	武蔵野美術大学教授
◎	島田 章三	愛知県立芸術大学長
	白石 和己	三重県立美術館長
	竹内 正	名古屋市博物館長
	野々川房子	日本メナード化粧品(株)常務取締役 メナード美術館アート・プロデューサー
	秦 成男	愛知県立千種高等学校長
	堀田 毅	愛知県文化振興事業団常務理事兼事務局長
	増井 賢淳	N H K 名古屋放送局事業部長
	三浦 定俊	東京国立文化財研究所協力調整官
	宮崎 玲子	愛知県美術館友の会会長
	宮澤 明倫	名古屋市美術館長
	伊東美樹代	愛知県県民生活部文化学事課長

◎ 会長 ○ 会長職務代理 (50音順)

愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

	氏 名	職名(所属・専門分野)
	浅野 徹	名古屋芸術大学教授 (日本近代美術史)
	尾崎 正明	東京国立近代美術館副館長 (日本近代美術史)
◎	黒田 亮子	美術評論家 (西洋近代美術史)
○	山梨 俊夫	神奈川県立近代美術館副館長 (近代美術史)
	吉田 俊英	奈良県立美術館学芸課長 (日本近世・近代美術史)

◎ 委員長 ○ 委員長職務代理 (50音順)

愛知県美術館年報 2004 年度版

研究紀要第12号

編集

発行

2006 年 3 月発行

愛知県美術館

愛知県美術館

名古屋市東区東桜1-13-2 〒461-8525

PHONE : 052-971-5511

FAX : 052-971-5604

表紙デザイン (原案)

印刷

小谷恭治

凸版印刷株式会社

**2004 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art
Bulletin of Aichi Prefectural of Art. Vol.12**

Edited by

Aichi Prefectural Museum of Art

Published by

Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higasiku,

Nagoya, 461-8525, Japan

Cover Designed by

Kyoji KOTANI

Printed by

Toppan Print Co.

©2006

Printed in Japan